

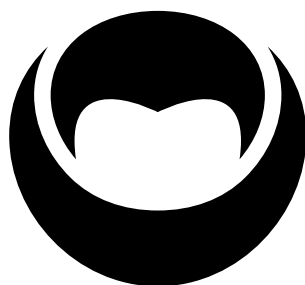
茨城県障害児・者歯科治療センター記録 (3)

I. 身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

II. 土浦心身障害者歯科治療センター（土浦歯科治療センター）

平成 25 年度

（平成 25 年 4 月 ～平成 26 年 3 月）



Ibaraki Dental Association

公益社団法人 茨城県歯科医師会

目 次

1. 在 籍 者 名 簿	2
2. 誌 上 発 表	4
3. 口演・ポスター・シンポジウム発表.....	6
4. 口演・ポスター・シンポジウム発表抄録.....	10
5. 講 演 会 ・ 研 修 会	29
6. 講演会・研修会・シンポジウム要旨.....	34
7. 患 者 統 計	38
8. 写 真 で 綴 る こ の 1 年	41
9. 録 事	47
10. 編 集 後 記	56

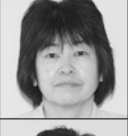
1. 在籍者名簿

I. 身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

1) 歯科医師

関口 浩（専任）センター長、医療管理者 東京歯科大学小児歯科学講座准教授 在籍期間：平成 21 年 9 月 1 日～現在 日本障害者歯科学会認定医・評議員、日本小児歯科学会専門医指導医、日本外傷歯学会指導医・理事	
大森 勇市郎（非常勤） 大森矯正歯科クリニック院長 在籍期間：平成 5 年 4 月 12 日～現在 日本矯正歯科学会認定医	
三田村 佐智代（非常勤） 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座講師 在籍期間：平成 18 年 4 月 1 日～現在 日本障害者歯科学会認定医、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士	
森永 桂輔（非常勤） 森永歯科医院副院長、富士市立中央病院・石岡第一病院非常勤麻酔医 在籍期間：平成 22 年 5 月 1 日～現在 日本歯科麻酔学会認定医、アメリカ心臓協会（AHA）BLS インストラクター 日本救急医学会 ICLS インストラクター	
景山 万貴子（非常勤） 在籍期間：平成 25 年 4 月 1 日～現在	

2) 歯科衛生士

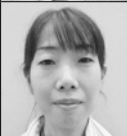
野村 美奈（常勤）主任 在籍期間：平成 19 年 4 月 1 日～現在 日本障害者歯科学会認定歯科衛生士、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（摂食嚥下リハビリテーション）	
鈴木 哉絵（常勤） 在籍期間：平成 21 年 4 月 1 日～現在 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（摂食嚥下リハビリテーション）	
鬼澤 璃沙（常勤） 在籍期間：平成 25 年 4 月 1 日～現在 平成 23 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日茨城歯科専門学校歯科衛生	
金子 雅子（非常勤） 在籍期間：平成 13 年 5 月 11 日～現在 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（在宅療養指導、口腔機能管理）	
高橋 裕子（非常勤） 在籍期間：平成 15 年 2 月 3 日～現在	

3) 受付事務

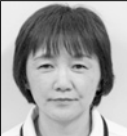
磯部 昌己（非常勤） 在籍期間：平成 25 年 4 月 22 日～現在	
---	---

Ⅱ. 土浦心身障害者歯科治療センター（土浦歯科治療センター）

1) 歯科医師

丸山 容子（非常勤）、医療管理者 在籍期間：平成 6 年 4 月 1 日～現在	
高木 伸子（非常勤） たかぎ歯科医院長 在籍期間：平成 4 年 9 月 29 日～現在 日本小児歯科学会専門医、日本障害者歯科学会認定医・評議員、介護支援専門員 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士、健康咀嚼指導士	
梅澤 幸司（非常勤） 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座講師 在籍期間：平成 21 年 9 月 1 日～現在 日本障害者歯科学会指導医	
伊藤 梓（非常勤） 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座助手 在籍期間：平成 24 年 10 月 5 日～現在 日本障害者歯科学会認定医	

2) 歯科衛生士

坂巻 ますみ（常勤） 在籍期間：平成 25 年 4 月 1 日～現在	
竹中 京子（非常勤） 在籍期間：平成 11 年 5 月 1 日～現在 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（摂食嚥下リハビリテーション） 介護支援専門員、健康咀嚼指導士、ヘルパー 2 級、サービス管理責任者	
木村 貴子（非常勤） 在籍期間：平成 17 年 10 月 25 日～現在	
石居 由香（非常勤） 在籍期間：平成 21 年 5 月 11 日～現在	
狩野 晴美（非常勤） 在籍期間：平成 21 年 6 月 12 日～現在	
和地 澄子（非常勤） 在籍期間：平成 21 年 9 月 11 日～平成 25 年 5 月 31 日退任	

3) 栄養士

手塚 文栄（非常勤） 在籍期間：平成 9 年 7 月 7 日～現在 管理栄養士、介護福祉士、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、 日本咀嚼学会健康咀嚼指導士、日本栄養士会認定在宅訪問管理栄養士	
--	---

2. 誌 上 発 表

I. 身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

No.	題 名	著 者	掲載誌	年 月
1	障害者歯科認定医歯科衛生士を目指して	鈴木 哉絵 関口 浩 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報 No. 532 6 月号 16-17 頁	平成 25 年 6 月
2	口腔センターの取り組み	金子 雅子 関口 浩 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報 No. 533 7・8 月号 34 頁	平成 25 年 8 月
3	心身障害者（児）歯科予防講習会報告	関口 浩 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報 No. 533 7・8 月号 35-37 頁	平成 25 年 8 月
4	歯科衛生士科学生の口腔センター相互実習報告	野村 美奈 鈴木 哉絵 鬼澤 璃沙 関口 浩 村居 幸夫 征矢 亘 小鹿 典雄 森永 和男	茨歯会報 No. 534 9 月号 57-61 頁	平成 25 年 9 月
5	水戸口腔センターでの学生臨床実習について	高橋 裕子 関口 浩 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報 No. 535 10 月号 33 頁	平成 25 年 10 月
6	第 30 回日本障害者歯科学会発表報告	関口 浩 大森勇市郎 野村 美奈 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報 No. 536 11 月号 27-30 頁	平成 25 年 11 月
7	私の障害者歯科治療	大森勇市郎 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報 No. 537 12 月号 28-29 頁	平成 25 年 12 月
8	平成 25 年度摂食嚥下研修会を開催して	三田村佐智代 野村 美奈 鈴木 哉絵 鬼澤 璃沙 金子 雅子 高橋 裕子 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報 No. 539 2 月号 14-16 頁	平成 26 年 2 月

Ⅱ. 土浦心身障害者歯科治療センター（土浦歯科治療センター）

No.	題 名	著 者	掲載誌	年 月
1	障害児・者歯科医療シンポジウム報告	丸山 容子 高木 伸子 関口 浩 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報 No. 530 4月号 17-20 頁	平成 25 年 4 月
2	歯科センターに勤務して 7 年	木村 貴子 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報 No. 531 5月号 21 頁	平成 25 年 5 月
3	ビデオ画像解析による正常乳児における吸啜運動の観察(学位論文)	高木 伸子 定岡 直 牧 茂	小児歯科学雑誌 51 巻 3 号 372-379 頁	平成 25 年 7 月
4	障害者歯科における歯科衛生士の役割	石居 由香 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報 No. 533 7・8月号 33 頁	平成 25 年 8 月
5	食事を摂ることの大切さ	狩野 晴美 丸山 容子 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報 No. 534 9月号 61-62 頁	平成 25 年 9 月
6	第 30 回日本障害者歯科学会に参加して	坂巻ますみ 丸山 容子 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報 No. 536 11月号 26-27 頁	平成 25 年 11 月
7	土浦歯科センター主催の心身障害者（者）歯科予防講習会報告	丸山 容子 高木 伸子 坂巻ますみ 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報 No. 537 12月号 30-31 頁	平成 25 年 12 月
8	本年の抱負	伊藤 梓	茨歯会報 No. 538 1月号 26-27 頁	平成 26 年 1 月
9	小児の摂食機能療法と栄養士の役割	手塚 文栄 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報 No. 540 3月号 26-27 頁	平成 26 年 3 月

3. 口演・ポスター・シンポジウム発表

I. 身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

No.	発表形式	題 名	発表者	発表学会	年月日	抄録掲載誌
1	ポスター	当センターにおける摂食・嚥下リハビリテーション外来の実態調査	野村 美奈 林 佐智代 寺門 寿恵 鈴木 哉絵 鬼澤 璃沙 関口 浩 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男 野本たかと	第 19 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会（倉敷）	平成 25 年 9 月 22 日	第 19 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会プログラム・抄録集 420 頁
2	ポスター	静脈内鎮静下歯科治療の実態調査	関口 浩 森永 桂輔 大森勇市郎 林 佐智代 野村 美奈 寺門 寿恵 鈴木 哉絵 鬼澤 璃沙 新谷 誠康 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	第 30 回日本障害者歯科学会総会および学術大会（神戸）	平成 25 年 10 月 13 日	日本障害者歯科学会雑誌 34 巻 3 号 311 頁
3	ポスター	当センターにおける障害児通所施設での取り組みについて	野村 美奈 鈴木 哉絵 寺門 寿恵 鬼澤 璃沙 関口 浩 林 佐智代 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	第 30 回日本障害者歯科学会総会および学術大会（神戸）	平成 25 年 10 月 13 日	日本障害者歯科学会雑誌 34 巻 3 号 439 頁
4	ポスター	開咬を呈した脳性麻痺患者への咀嚼機能改善の試み	大森勇市郎 林 佐智代 関口 浩 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	第 30 回日本障害者歯科学会総会および学術大会（神戸）	平成 25 年 10 月 13 日	日本障害者歯科学会雑誌 34 巻 3 号 468 頁

No.	発表形式	題 名	発表者	発表学会	年月日	抄録掲載誌
5	口演	全身麻酔の変遷	森永 桂輔	第 22 回茨城県 歯科医学会 (水戸)	平成 26 年 2 月 9 日	プログラム・ 抄録集 9 頁
6	ポスター	当センター相互実習にお ける茨城歯科専門学校歯 科衛生士科学生の意識調 査	鬼澤 璃沙 野村 美奈 鈴木 哉絵 金子 雅子 高橋 裕子 関口 浩 大森勇市郎 林 佐智代 景山万貴子 村居 幸夫 征矢 亘 小鹿 典雄 森永 和男	第 22 回茨城県 歯科医学会 (水戸)	平成 26 年 2 月 9 日	プログラム・ 抄録集 20 頁
7	ポスター	ダウン症患者へのブラッ シング指導の取り組み	鈴木 哉絵 野村 美奈 鬼澤 璃沙 金子 雅子 高橋 裕子 関口 浩 大森勇市郎 林 佐智代 景山万貴子 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	第 22 回茨城県 歯科医学会 (水戸)	平成 26 年 2 月 9 日	プログラム・ 抄録集 21 頁
8	ポスター	乳歯外傷が原因により下顎 中切歯歯根形成が遅延した 1 例	関口 浩 新谷 誠康 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	第 22 回茨城県 歯科医学会 (水戸)	平成 26 年 2 月 9 日	プログラム・ 抄録集 22 頁
9	ポスター	第一大臼歯異所萌出に対す る咬合誘導処置	関口 浩 新谷 誠康 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	第 22 回茨城県 歯科医学会 (水戸)	平成 26 年 2 月 9 日	プログラム・ 抄録集 22 頁

No.	発表形式	題 名	発表者	発表学会	年月日	抄録掲載誌
10	シンポジウム	障害児者歯科シンポジウム：1都4県口腔保健センターにおける障害児者歯科医療の取り組みと課題 障害児者歯科医療における口腔保健センターの果たすべき役割	石井 拓男	第22回茨城県歯科医学会 (水戸)	平成26年 2月9日	プログラム・抄録集 49頁
11	シンポジウム	障害児者歯科シンポジウム：1都4県口腔保健センターにおける障害児者歯科医療の取り組みと課題 群馬県：歯科総合衛生センターにおける障害児者歯科医療の取り組みと課題	辻野啓一郎	第22回茨城県歯科医学会 (水戸)	平成26年 2月9日	プログラム・抄録集 50頁
12	シンポジウム	障害児者歯科シンポジウム：1都4県口腔保健センターにおける障害児者歯科医療の取り組みと課題 埼玉県：口腔保健センターにおける障害児者歯科医療の取り組みと課題	高野 宏二	第22回茨城県歯科医学会 (水戸)	平成26年 2月9日	プログラム・抄録集 51頁
13	シンポジウム	障害児者歯科シンポジウム：1都4県口腔保健センターにおける障害児者歯科医療の取り組みと課題 東京都：東京都立心身障害者口腔保健センターにおける障害児者歯科医療の取り組みと課題	山口さやか	第22回茨城県歯科医学会 (水戸)	平成26年 2月9日	プログラム・抄録集 52頁
14	シンポジウム	障害児者歯科シンポジウム：1都4県口腔保健センターにおける障害児者歯科医療の取り組みと課題 千葉県：千葉市総合保健医療センターにおける障害児者歯科医療の取り組みと課題	小峯 久直	第22回茨城県歯科医学会 (水戸)	平成26年 2月9日	プログラム・抄録集 53頁

No.	発表形式	題 名	発表者	発表学会	年月日	抄録掲載誌
15	シンポジウム	障害児者歯科シンポジウム： 1都4県口腔保健センター における障害児者歯科医療 の取り組みと課題 茨城県：身体障害者小児歯 科治療センターにおける障 害児者歯科医療の取り組み と課題	大森勇市郎	第22回茨城県 歯科医学会 (水戸)	平成26年 2月9日	プログラム・ 抄録集 54頁

II. 土浦心身障害者歯科治療センター（土浦歯科治療センター）

No.	発表形式	題 名	発表者	発表学会	年月日	抄録掲載誌
1	ポスター	ビデオ画像解析による正 常乳児における吸啜運動 の観察	高木 伸子 定岡 直 牧 茂	第62回日本口 腔衛生学会 (松本)	平成25年 5月16日	口腔衛生学会 雑誌 62巻2号 172頁
2	ポスター	当センターにおける年齢 別、障害別来院状況につ いて	丸山 容子 梅澤 幸司 伊藤 梓 高木 伸子 坂巻ますみ 竹中 京子 木村 貴子 石居 由香 狩野 晴美 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	第22回茨城県 歯科医学会 (水戸)	平成26年 2月9日	プログラム・ 抄録集 20頁

4. 口演・ポスター・シンポジウム発表抄録

I. 身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

発表 No.1

当センターにおける摂食・嚥下リハビリテーション外来の実態調査

野村美奈¹，林 佐智代^{1,2}，寺門寿恵¹，鈴木哉絵¹，鬼澤璃沙¹，関口 浩^{1,3}，村居幸夫¹

征矢 亘¹，森永和男¹，野本たかと²

茨城県身体障害者小児歯科治療センター¹，日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座²

東京歯科大学小児歯科学講座³

【諸言】

茨城県身体障害者小児歯科治療センター（以下当センター）では、平成18年4月より摂食・嚥下リハビリテーション外来（週1回）を開設し、食べる機能に障害のある方の診療・指導を行っている。指導にあたる職種は、歯科医師および歯科衛生士である。開設7年が経過し、摂食・嚥下リハビリテーション外来の現状を把握し、今後の地域における摂食指導の在り方について模索することを目的に実態調査を行ったので報告する。

【対象と方法】

平成18年3月から平成25年3月までの7年間に当センターの摂食・嚥下リハビリテーション外来を受診した患者を対象とし、診療録より年齢、主な障害、主訴、受診動機等について情報を抽出し、集計および検討を行った。

【結果】

- ①7年間の患者数は234名、延べ患者数は1,896名であった。
- ②初診患者数は増加傾向にあり、平成24年度では50名であった。
- ③受診動機は当センターの歯科医師の紹介および医療機関からの紹介がともに54名で最も多かった。
- ④年齢は0歳～5歳までが最も多く144名で全体の約6割を占めていた。
- ⑤基礎疾患は、ダウン症が最も多く58名、次いで脳性麻痺55名であった。
- ⑥初診時の主訴は、“かまない”が42名で最も多く、次いで“丸のみ”27名、“むせる”25名、“食に対する拒否”が22名の順であった。

【考察およびまとめ】

受診動機では、医療機関からの紹介が多かったことから、地域医療機関において摂食・嚥下リハビリテーションの重要性が周知されてきていると考えられる。また、低年齢児の受診が6割以上を占めていたことは、保護者の食べる事への関心が高く、早期からの相談を望んでいると考えられる。すなわち、食べる事への支援者の育成や相談のシステム化など、当センターにおける摂食・嚥下リハビリテーション外来のみならず、地域で食べる事への支援態勢の構築を行うことが必要と考える。

静脈内鎮静下歯科治療の実態調査

関口 浩^{1, 2}, 森永桂輔¹, 大森勇市郎¹, 林 佐智代^{1, 3}, 野村美奈¹, 寺門寿恵¹, 鈴木哉絵¹

鬼澤璃沙¹, 新谷誠康², 村居幸夫¹, 征矢 亘¹, 森永和男¹

茨城県身体障害者小児歯科治療センター¹, 東京歯科大学小児歯科学講座²

日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座³

【緒言】

水戸口腔センターに来院する障害児・者の中には、嘔吐反射が強かったり、精神遅滞があり歯科治療に対して拒否行動が激しい患者、脳性麻痺のように緊張や不随運動があり治療が困難な患者がいる。このような患者に歯科治療を行う上でその行動を抑制するために静脈内鎮静法は有用な方法であると考え、2010年10月から本法の実施を開始した。今回、静脈内鎮静下で歯科治療を実施した患者の実態調査を行ったので報告する。

【対象および方法】

調査対象は、2010年10月から2012年12月までの2年3か月間に本センターで静脈内鎮静法を用いて歯科治療を行った障害患児者24名である。調査方法は診療録をもとに性別、年齢、障害の種類、処置内容、治療歯数、治療時間および複数回施術の有無の各項目について調査を行った。なお、静脈内鎮静下で歯科治療を実施するに際しては、事前に麻酔医が保護者および患者に対して説明を行い、同意が得られた後に実施した。なお、本調査は日本障害者歯科学会倫理委員会の承認を得て実施した（承認日：2013年1月1日，臨床研究番号120004）。

【結果】

- ①静脈内鎮静下での施術回数は、患者24名に対して、2年3か月間に延べ114回であり、月平均3.7回であった。
- ②性別は、男性が17人、女性が7人であり、男性が全体の約70%を占めていた。
- ③年齢は、最年少13歳、最高齢は51歳で、平均年齢は25歳9か月であった。10代、20代の患者が多く、年代が上がるにつれ少なくなる傾向にあった。
- ④障害の種類は、精神遅滞が13例で最も多く、次いで、自閉症6例、脳性麻痺4例、ADHD1例の順であった。これら患者には共通して、歯科治療に対して恐怖心が強く、過度な緊張が見られる中で、静脈内鎮静法の選択理由となった嘔吐反射が強い者が8例含まれていた。
- ⑤処置内容は、インレー修復が62例で最も多く、次いで、コンポジットレジン修復38例、感染根管処置25例、抜歯20例と続き、保存修復処置が大きな割合を占めていた。
- ⑥1回の施術で処置を行った治療歯数は、最小1本、最多7本で、平均治療歯数は2.6本であった。なお治療歯数は保存修復処置と抜歯をカウントしたもので、歯周処置歯数は含まれていない。
- ⑦治療時間は、最短20分、最長2時間10分であり、平均治療時間は49.3分であった。静脈内鎮静法を用いた歯科治療において、当センターでは予定治療時間を1時間程度としている。治療時間は患者の鎮静効果や治療歯数によって左右されるが、今回の平均治療時間の結果より、比較的予定通りに行われていたと考える。
- ⑧複数回施術の有無は、1回で治療が終了したのは24例中1例のみであり、23例は2回以上の複数回施術であった。複数回施術の回数で最も多かったのは2回が8例、次いで5回が4例であった。10回以上は2例あったが、これら症例では、要処置歯数が多く、また感染根管治療が多かったために回数が増

えたためである。

【考察および結論】

歯科治療に対して拒否行動が激しい障害児・者に対しては、その行動を抑制するために身体抑制具などを使用して治療を行ってきた。しかし、静脈内鎮静法の導入により、治療が困難であった症例にも適応できるようになり、患者にとっては精神的、肉体的苦痛を回避でき、また術者にとっては安全かつ効率的に歯科治療が行えることから、今後治療の幅が広がることが期待される。

発表 No.3

当センターにおける障害児通所施設での取り組みについて

野村美奈¹、鈴木哉絵¹、寺門寿恵¹、鬼澤璃沙¹、関口 浩^{1, 2}、林 佐智代³、村居幸夫¹
征矢 亘¹、森永和男¹

茨城県身体障害者小児歯科治療センター¹、東京歯科大学小児歯科学講座²
日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座³

【緒言】

当センターでは、某障害児通所施設において年1回、障害児の保護者に対し、口の健康の大切さの講話と口腔ケアの実習などの勉強会を行ってきた。そこで今回、介入から6年間の統計と平成24年度に参加した保護者および施設職員への調査を行い、今後の課題や方向性を模索することを目的に検討を行ったので報告する。

【対象と方法】

対象は、平成19年度から平成24年度の6年間に勉強会に参加した保護者96名と平成24年度に勉強会に参加してアンケートに答えた保護者8名と施設職員13名とした。勉強会は2つの教室に分かれて行い、発達障害児の教室では口腔衛生、定期的な口腔管理の大切さの講話と口腔ケア、歯磨きの実習を行い、肢体不自由児の教室では口腔衛生の大切さと口腔機能、食べる機能の発達の講話と口腔ケア実習を行った。平成24年度は勉強会終了後に、参加した保護者及び施設職員に記入してもらったアンケートから意見を抽出し振り返りを行った。

本調査は日本障害者歯科学会倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号130011）。

【結果】

- ①平成19年度から平成24年度に勉強会に参加した保護者は、発達障害児の教室では61名、肢体不自由児の教室では35名、延べ96名であった。
- ②勉強会後の当センターへの受診者数は発達障害児の教室では14名（23.0%）、肢体不自由児の教室では28名（80.0%）と多く、受診内容は摂食嚥下外来であった。
- ③保護者のアンケートは、平成24年度の参加者17名中8名で回収率は47.5%であった。
 - ・「お口の中で困っていることはあるか」については、少し困っているが4名で最も多く、困っていないが2名、非常に困っている、あまり困っていないがそれぞれ1名ずつであった。
 - 困っている理由は、歯並びが悪い、歯磨きを嫌がる、永久歯が生えてくるか心配などであった。
 - ・「歯科医院に受診したことがあるか」では、ある5名、ない3名であった。ない理由として、動いてしまっ
 - て歯医者には連れていけないなどであった。
 - ・「食べることで困っていることはありますか」では、少し困っている、あまり困っていないがそれぞれ3名で、非常に困っているが1名であった。困っている内容は、口が閉じない、舌が出る、水がうまく飲

めない、こぼす、甘いものが好きなどであった。

・「勉強会の講話について」は、よくわかったが5名、わかったが3名で、「実習について」は、よくわかった、わかったがそれぞれ4名で、わからなかったの意見はなかった。

④施設職員へのアンケート回答人数は13名であった。職種は、保育士が7名、介護福祉士が4名であった。

・「障害児への口腔ケアを行ったことがあるか」では、ないと答えた者が11名、あるが1名であった。親子で通所する施設であるため、歯磨きは保護者が行い、実際に職員が関わるのが少ないと思われる。

・「障害児への食事の支援、介助を行ったことがあるか」は、あるが10名、ないは2名であった。

⑤今後の保護者勉強会で希望する内容は、歯磨きの苦手な子ども達への歯磨き指導、対応法、咀嚼の練習による食事、おやつについてなどであった。

【考察および結論】

肢体不自由児の教室では、勉強会後の受診率が8割近くを占めていた。摂食嚥下リハビリテーション外来に早期受診したことは食べる機能を育てる大切さが理解され、今後も推奨される点である。また、保護者、職員とも意見のあった、歯磨きの苦手な子ども達への対応法なども実習時に充実させる必要があると思われる。職員のアンケートより、障害児に口腔ケアの経験がない者が多かった点では、かわる職員が口腔衛生の大切さを理解し、障害児やその保護者を一緒に支援できる環境作りが大切であると考ええる。

発表 No.4

開咬を呈した脳性麻痺患者への咀嚼機能改善の試み

大森勇市郎¹、林 佐智代^{1,2}、関口 浩^{1,3}、村居幸夫¹、征矢 亘¹、森永和男¹
茨城県身体障害者小児歯科治療センター¹、日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座²
東京歯科大学小児歯科学講座³

【緒言】

重度脳性麻痺患者は、舌を含めた口腔周囲筋の異常により、顎顔面が正常に成長発育せず重篤な不正咬合を呈することがある。また不正咬合のため、咀嚼嚥下機能にも十分な発達がなく、口腔周囲筋の誤った筋活動が不正咬合の更なる重篤化に結びついているものと考えられる。

今回、不正咬合を呈する重度の脳性麻痺患者に対して、咀嚼嚥下機能の改善を求めるために、歯列被覆型義歯（以下オーバーデンチャー）、嚥下補助床（以下PAP）、摂食嚥下リハビリテーション等を施行した症例を経験したので報告する。

【対象および治療経過】

患者は平成元年6月生まれの24歳男子。脳性麻痺にて肢体不自由のため車椅子使用である。

平成 5年7月：当センター初診

平成 15年9月：開咬・逆嚥下・舌突出の改善を主訴に矯正歯科医受診。同年11月、矯正診断のための資料採取。

平成 16年1月：下顎歯列へのオーバーデンチャーをセット。

平成 17年9月：オーバーデンチャー使用せず不適合となる。

平成 24年4月：摂食嚥下の機能向上を目的にPAPセット。摂食機能療法を3回受診。

平成 24年9月：PAP再製作。現在に至る。

なお、症例の発表に際しては患者および保護者の同意を得ている。

【結果】

- ①初診時より、乳前歯部のエナメル減形成と舌突出癖は指摘されていた。平成13年7月には咬合平面の過度の前方傾斜が顕著になってきた。
- ②平成15年11月（13歳10ヶ月時）の側面頭部X線規格写真（以下セファロとする）分析によると上顎骨の位置（SNA:85）、大きさ（A'-Ptm':52.5）はほぼ標準値を示していた。それに対して下顎骨は下顎枝長（Cd-Go:57）が小さく、下顎骨体長（Pog'-Go:87.5）・下顎骨全体長（Gn-Cd:132.5）は著しく大きく、位置（SNB:85）も前方位であった。また下顎下縁平面角（MP to SN:50.5）、下顔面高（Ans-Me:79）ともに著しく大きく、いわゆる long face type を示していた。
- ③上顎前歯歯軸はやや唇側傾斜（U1 to SN:115）、下顎前歯歯軸（L1 to MP:69）は下顎下縁平面に対して著しい舌側傾斜を示していた。
- ④Overjetは0.7mm、Overbiteは-3.5mmであった。
- ⑤前歯部開咬を伴った重度の骨格性下顎前突症と診断。咬合の改善には術前・術後矯正治療を含む上下顎同時移動術が必要と判断されたが、基礎疾患を考慮して矯正治療は行わないことにした。
- ⑥前歯咬断機能を付与するため、下顎へのオーバードンチャーをセットした。その結果、当初はある程度の効果が得られたが、次第に前歯部開咬が進行し、下顎歯列弓幅径の減少もあり、オーバードンチャーの装着が困難となった。

その後、当センターの摂食嚥下リハビリテーション外来担当医と相談の上、PAPを装着し摂食嚥下訓練を受けた結果、嚥下機能の向上が見られた。

【考察および結論】

今回の症例は乳歯列期にはすでに舌突出癖は存在したものの、開咬は軽度であった。しかしながら脳性麻痺による筋活動の異常により、下顎骨の下方成長が著しくなったものと考えられる。矯正治療による咬合の改善が不可能なため、オーバードンチャーによる前歯部の被蓋を回復したが、残余成長あるいは舌突出による下顎の後下方回転のため、前歯部開咬が悪化してきた。そこで機能面でのアプローチとしてPAPと摂食嚥下リハビリテーションを行い、一定の効果をえた。今後は、脳性麻痺患者への早期からの摂食嚥下リハビリテーションを行うことによって顎顔面の異常な成長を少しでも抑制できる可能性があると思われる。

発表 No.5

全身麻酔の変遷

森永桂輔

森永歯科医院（水戸市歯科医師会）、茨城県身体障害者小児歯科治療センター】

1846年にアメリカの歯科医師ウィリアム・T・G・モートンが行ったジエチルエーテルによる頸部手術が、吸入麻酔を用いた初の近代的な全身麻酔手術である。その後、麻酔薬の開発とともに、吸入麻酔中心の麻酔法から、鎮痛剤（オピオイド）・鎮静剤・筋弛緩剤を適切に組み合わせた、バランス麻酔が主流となった。さらに近年では良好な鎮痛と覚醒を得るために、吸入麻酔薬やプロポフォールなどの鎮静薬を少なめにしてオピオイドを主体とした全身麻酔を行うことが主流となっている。

2007年に本邦で発売されたレミフェンタニル（商品名：アルチバ）は短時間で作用し、どんなに長時間多量に使っても直ちに効果が消失する、理想的なオピオイドである。また、2010年に発売された、筋弛緩剤の拮抗薬であるスガマデクス（商品名：ブリディオン）は、非脱分極性筋弛緩薬を直接取り囲む「包接」という直接結合により複合体を形成し、筋弛緩剤の作用を迅速・確実に不活性化し、全く新しいタイプの拮抗薬である。従来の抗コリンエステラーゼ薬による競合拮抗では、副交感神経症状などの副作用があるうえ、

麻酔導入直後のような深い筋弛緩状態では自発呼吸を回復させる十分な拮抗は不可能であったが、スガマデックスの登場により、より安全な麻酔が提供できるようになった。

今後の注目すべき新たな薬剤に、吸入麻酔剤のデスフルランがある。デスフルランは血液／ガス分配係数が0.42と非常に低く導入・覚醒が早いというメリットがある。一方で最小肺胞内濃度(MAC)は7.25と高く、使用量が多くなり、環境面・コスト面でのデメリットがある。そのため、麻酔深度の調節が難しい低流量麻酔(総流量が11以下)が求められるが、麻酔器の発達により、それも容易になりつつある。

麻酔医は豊富な経験と正確な知識をもとに、その患者に最適な麻酔法を選択しなければならない。全身麻酔は確かに危険を伴う方法ではあるが、患者が受けるメリットはそれを上回ることが多いのも事実である。外科手術だけでなく、多数歯う蝕などにより集中的な歯科治療を必要とする患者(障害者・小児・歯科治療恐怖症患者)に対して、全身麻酔は有効な一つの選択肢であることは間違いない。

発表 No.6

当センター相互実習における茨城歯科専門学校歯科衛生士科学生の意識調査

鬼澤璃沙¹、野村美奈¹、鈴木哉絵¹、金子雅子¹、高橋裕子¹、関口 浩^{1,2}、大森勇市郎¹
林 佐智代^{1,3}、景山万貴子^{1,4}、村居幸夫¹、征矢 亘¹、小鹿典雄⁵、森永和男¹
茨城県身体障害者小児歯科治療センター¹、東京歯科大学小児歯科学講座²
日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座³、日本大学松戸歯学部顎咬合形成外科学講座⁴
茨城歯科専門学校⁵

【緒言】

当センターでは、平成24年度より茨城歯科専門学校歯科衛生士科3年生を対象に、臨床実習期間に相互実習を行っている。本実習は、既習の知識・技能を結びつけながら、業務の理解を深め、実践能力を養うことを目的に行っている。1年生での基礎実習、2年生後期からの臨床実習で経験を積み、改めて相互実習を行うことによって、どのような意識の変化がみられたのか、実習後に学生にアンケートを実施し、調査したので報告する。

【方法】

対象は、茨城歯科専門学校歯科衛生士科の第42期生(平成24年度)39名および第43期生(平成25年度)53名の計92名である。

【結果】

この実習を受講する目的として、歯科衛生士として必要な実習である、患者さんへの対応等に役立つ実習と感じた学生は半数以上を占めた。また、この実習を行って、自分の考え(知識)が広がった、臨床実習に取り組む姿勢が変わったと感じた学生は全体の8割を占めた。

・学生の意見

- ①患者さんへの問診の際はしっかり聞く事が重要だと思いました(体調や貧血・現在の薬の確認など)。
- ②技術・知識の面やコミュニケーション能力など自分に足りないものが分かったり、分からない事が理解出来た実習でした。
- ③もう一度自分が出来ない事や苦手な事が再確認出来る実習でした。
- ④アシスタント業務(バキューム・ライティングなど)を指導して頂き、DHとして働く為に必要な事を学びました。
- ⑤姿勢やポジションについて、実際に働いている人からの意見が聞けて良かったです。どのようなことに

注意して行えば良いのかよくわかりました。

⑥出来る事を1つでも増やして、自信を持ってできるようになりたいと思いました。

⑦バキュームの入れ方など実習でも実践してみたいと思いました。

⑧今までの実習とはまた違う体験をすることができ、今後の実習に対しての見方が変わりました。

⑨自分の反省点を含め、患者さんの気持ちを理解して向上していきたい、取り組んでそのように思った。

⑩スケーリングの仕方やプロービングなどわかりやすく教えて下さり、今後の実習に活かしていこうと思いました。

⑪実際に行ってみて、患者さんの思っていることなどを言ってもらえたので、今後注意していきたいと思いました。

⑫臨床実習でセメントの練り方やDHの方のポジションなどを見て、今回できなかったところを学びたいと思いました。

【考察および結論】

3年次に、改めて相互実習を行うことによって、自分自身が苦手とすることや理解できていなかったことなどが再確認できた。また、改めて患者役を体験することによって、どのように行えば患者さんは気持ちよく受診できるのかなど、身をもって体験することができたと考えられる。

私自身、2年間教員として学生指導を行っていたが、今年度より臨床の立場から学生指導を行った。1年生の基礎実習の時から、臨床実習を経て、実習態度や実習への取り組む姿勢に違いを感じ、大きく成長したように感じられた。患者に対する気遣いやバキューム操作等の技術面なども意識しながら行っているように思えた。

今後もこのような実践的な実習の中で、臨床の立場から学生にきちんと指導していけるよう、日々の診療につとめていきたいと思う。

発表 No.7

ダウン症患者へのブラッシング指導の取り組み

鈴木哉絵¹、野村美奈¹、鬼澤璃沙¹、金子雅子¹、高橋裕子¹、関口 浩^{1,2}、大森勇市郎¹

林 佐智代^{1,3}、景山万貴子^{1,4}、村居幸夫¹、征矢 亘¹、森永和男¹

茨城県身体障害者小児歯科治療センター¹、東京歯科大学小児歯科学講座²

日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座³、日本大学松戸歯学部顎咬合形成外科学講座⁴

【緒言】

ダウン症患者は歯周疾患に早期に罹患し、進行しやすいといわれています。そのため歯の喪失につながり口腔機能の低下を招きます。日常の口腔ケアや定期的な口腔管理が重要になってきます。しかし、本人の歯磨きの意欲が低かったり、筋肉が低緊張であり指も短いことから、歯ブラシをあててもなかなかうまく口腔ケアにつながらないことが多く見られます。そこで、当センターに来院するダウン症患者へのブラッシング指導の取り組みについて報告します。

【症例および指導経過】

①認知発達と歯磨き行動の発達過程

・習慣化形成

歯ブラシによる感覚遊び

親による適切な感覚刺激の導入

- ・ 歯磨き動作の獲得開始，歯磨きのイメージ形成

歯磨きごっこ遊び

- ・ 歯磨き動作の習熟期，歯磨きの目的を理解する

絵カード遊びによる分類と関連付けの学習

- ・ 自己健康管理への働きかけ

口腔の構造や機能の学習

染色液でのプラーク染め出し

- ・ 自己健康管理の習熟期

ダウン症患者の場合，知的精神機能や運動機能の発達の遅れから経験に乏しく，適切にブラッシングを行うためには，口腔内のイメージを育成することも重要なため，各時期に適した支援が必要になってきます．

②症例 1

- ・ 年齢：5 歳・性別 女

- ・ 初診：0 歳の時に摂食嚥下リハビリテーションの外来に来院しました．

- ・ 1 歳 9 ヶ月歯科の定期健診をはじめました．

- ・ 虫歯などはありません．

- ・ 自分で磨く練習をするため，定期健診時にブラッシング指導を始めました．

1 回目 まずは簡単な所から前歯と下顎臼歯部咬合面に歯ブラシをあてる練習を始めました．

2 回目 染め出しをして磨けている所の確認と磨けていない所の確認をしました．

少しずつではありますが，自分で歯ブラシをあて磨く事ができるようになりました．保護者による仕上げ磨きも続けておこなってもらい，定期健診時に磨く練習を続けて支援していきたいと考えています．

③症例 2

- ・ 年齢：11 歳・性別 女

- ・ 初診：2 歳の時歯科健診を希望して来院．

- ・ う蝕罹患リスクが高いため，2 ヶ月に 1 度定期的に来院し歯磨きの練習と歯科衛生士の清掃介入をおこなっています．

- ・ 染め出しをして，鏡をみて本人に汚れの確認をしてもらいます．

- ・ 毎回，染め出し時のプラークスコアの変化は特にみられません．

鏡をみて汚れを確認し赤く染まっている所を落とすように磨く練習をしました．歯列不正のみられる前の歯を歯ブラシを縦に使用し，汚れを落とそうと本人の工夫がみられました．毎回，全体的にプラークの付着はみられるが，自分で磨く練習をしている時に上手に歯ブラシをあてられる所が増えている事がみられました．家での練習方法を検討していく事が今後の課題です．

④症例 3

- ・ 年齢：15 歳・性別 男

- ・ 初診：1 歳の時に歯科健診を希望して来院しました．

- ・ 3 ヶ月に 1 度定期健診で来院しています．

- ・ 歯石の沈着はみられません．

平成 25 年 10 月 21 日来院時と平成 26 年 1 月 20 日来院時に染め出しをしました．プラークスコアはあまり変化はありませんでした．今回も歯ブラシのあて方の練習をしました．ぶくぶくうがいの練習を続けていたため，頬がだいぶ膨らむようになりました．家で母親の模倣をして練習をしてきてくれたようです．

⑤ぶくぶくうがいの効果

口の中に水を含みぶくぶくとうがいをするには、上下の唇を閉じ頬を膨らませておこなう動作により、効果が得られます。ですが意外と難しく口に水を含みぶくぶくの動作をせずそのまま水を吐き出してしまいうことが多くみられます。ぶくぶくの動作ができることで、頬側の食物の残渣の量もかわってきます。

練習方法としておこなっているのが水を含まず頬を膨らませる練習です。上下の唇は閉じることができませんが、多くが頬の筋力が弱くふくらみが乏しく感じられます。模倣ができる場合は、実際に膨らませる所と一緒にこなします。家でもぶくぶくうがいの時意外にも時間があるときに頬を膨らませる練習するよう促す事があります。

【考察および結論】

今回の症例は、いずれも低年齢時から歯科への介入でした。定期的な歯科健診を受診していくなかで、今後予想される歯周疾患の罹患などを予防できるような支援が必要と感じました。

さらに、継続して口腔内の経過をみていく中で、家庭での口腔清掃と実践がもう少し必要と感じました。そのためには、保護者の協力が必要です。今後協力を得られるような指導方法を考えていきたいと思います。

発表 No.8

乳歯外傷が原因により下顎中切歯歯根形成が遅延した1例

関口 浩^{1,2}, 新谷誠康², 村居幸夫¹, 征矢 亘¹, 森永和男¹
茨城県身体障害者小児歯科治療センター¹, 東京歯科大学小児歯科学講座²

【緒言】

乳歯外傷が後継永久歯に及ぼす障害の種類には様々なものがあるが、今回演者らは、乳歯外傷が原因で後継永久歯の歯根形成が遅延した1症例を経験したので報告する。

【症例】

患 児：初診時年齢7歳2か月の女兒。

主 訴：下顎右側中切歯の動揺を主訴に来院。

家族歴：特記すべき事項なし。

既往歴：保護者の話によれば、患児は2歳0か月の時に転倒し、下顎右側乳中切歯の歯冠全体が歯肉内に陥入したが、その後、当該歯は受傷前の元の位置にまで自然に回復したとのことである。患児の歯科治療を担当した当時の先生から保護者を通じてお借りしたエックス線写真の画像診断では右側乳中切歯の切端の位置は左側乳中切歯に比べ低位にあるが、回復途上にあることが推察される。後継永久歯である右側中切歯歯胚の状態については、画像が不鮮明であるため所見は得られなかった。

現 症：口腔内診察の結果、下顎右側中切歯は挺出し、著しい動揺が認められた。摂食時に下顎右側中切歯切端が上顎切歯部歯肉に接触し、疼痛が発現するとのことであった。歯冠唇面には広範囲にわたる白斑を認め、探針による触診ではエナメル表面は硬く、粗造感を呈していた。エックス線画像検査では、左側中切歯歯根は正常な形成状態を示しているのに対して、右側中切歯では歯根形成は認められなかった。

経 過：

①口腔内診察およびエックス線画像検査の結果、下顎右側中切歯は保存不可能と診断し抜去した。

なお、抜歯窩の搔爬は行わなかった。

②7か月経過（7歳9か月）

右側中切歯抜去後の喪失部位に対しては、床型保障装置（小児義歯）を装着し、歯列・咬合管理を行うことにした。この時期から右側中切歯部の唇側歯肉に歯牙らしき硬組織の存在が認められた。デンタルエックス線画像検査では、抜去した右側中切歯部の骨内に歯冠の一部並びに歯根と思われる硬組織の形成が認められた。歯根の輪郭は不明瞭で、根管の存在は認められなかった。

③ 1 年経過（8 歳 2 か月）

右側中切歯部の唇側歯肉に出現した硬組織の露出程度に大きな変化は認められない。デンタルエックス線画像検査では、形態は不規則だが、象牙質と根管が認められ、さらに歯根膜空隙が存在することから、明らかに歯根形成が起こっていることが確認された。また、中切歯の歯冠抜去後に形成されたと思われる歯冠歯頸部に相当する硬組織の形成も認められた。唇側歯肉に露出した硬組織はこの歯頸部硬組織の一部が露出したものと思われる。

④ 4 年 10 か月経過（12 歳 0 か月）

右側中切歯部の唇側歯肉に露出していた歯頸部は歯根形成に伴い、歯頸部全体が口腔内萌出したのが認められた。歯頸部断面は硬組織で被覆され、根管は外界とは交通していなかった。なお、歯根の動揺度は生理的範囲内であった。エックス線画像検査では、右側中切歯の根端孔は閉鎖し、歯根の完成が認められた。

⑤ 5 年 8 か月経過（12 歳 10 か月）

左側の健全中切歯と比べ歯根長はやや短く、歯根形態は多少彎曲しているが、歯髓腔、歯根膜空隙、歯槽硬線が認められ、歯根形成が正常に行われたことを示していた。本例の患者は転居したために、その後の経過を診ることはできなかった。

【考察および結論】

乳歯外傷が後継永久歯に及ぼす影響は、受傷年齢が低いものほど、また強い外力をこうむったと考えられる永久歯ほど重篤な障害が現れる傾向がある。本例は受傷年齢が 2 歳 0 か月であり、受傷状態が乳歯の陥入であったことから、歯冠形成期にある後継永久歯が強い外力を受け、その結果歯冠の形成停止ならびに歯根形成の遅延が引き起こされたものとする。永久歯の歯根形成期における乳歯外傷による影響として、歯根の彎曲や屈曲、歯根の形成停止、萌出遅延や埋伏などの報告がある。本例では歯根形成が停止することなく継続して行われたのは、ヘルトヴィッヒの上皮鞘が外傷の直接的な障害をうけなかったこと、また抜歯後に搔爬を行わず、しかも創傷治癒が迅速に行われたために無菌的な状態を維持することができたためと思われる。

本例は、歯根形成が停止することなく完成に至った極めて希な症例と考える。

発表 No.9

第一大臼歯異所萌出に対する咬合誘導処置

関口 浩^{1, 2}, 新谷誠康², 村居幸夫¹, 征矢 亘¹, 森永和男¹

茨城県身体障害者小児歯科治療センター¹, 東京歯科大学小児歯科学講座²

【緒言】

一般に上下顎第一大臼歯は初期咬合においては咬頭対咬頭のものが多く、その後下顎第一大臼歯が上顎第一大臼歯に対して相対的に前方に変化することにより永久歯列期の正常咬合に移行する。この変化は、第一大臼歯初期咬合から 19 歳頃まで継続しているが、側方歯群交換期には変化が大きい。歯列弓全体の空隙の調整を考慮しつつ、この第一大臼歯の咬合関係の確立を管理、調整することが望まれる。

今回、第一大臼歯萌出期にみられる異所萌出に対する咬合誘導処置について紹介する。

【異所萌出の特徴】

- ①異所萌出とは、永久歯の萌出に伴い先行乳歯以外の近接する乳歯の歯根を異常に吸収し、その乳歯の動揺や脱落を起こさせたり、また、すでに萌出している永久歯の歯根を吸収するような永久歯の萌出ならびに萌出経路の異常をいう。原因としては、歯牙の位置異常、歯牙の萌出方向の異常、乳歯の外傷、乳歯の根端病巣、顎骨の成長不足、歯牙の大きさと顎骨の大きさの不調和などが挙げられる。
- ②異所萌出の好発部位としては、中切歯、側切歯、第一大臼歯があげられる。第一大臼歯の異所萌出は上顎に多く発現する。
- ③第一大臼歯の異所萌出の発現頻度は、欧米では2～4%、我が国においても約3%と報告されており、決して数多く経験する症例ではない。しかし、異所萌出を放置すると第二乳臼歯の早期喪失を来し、第一大臼歯が本来の位置よりも近心位に出齧し、歯列周長の減少につながるため異常を発見したら、直ちに処置することが必要である。
- ④異所萌出の原因には、第一大臼歯歯胚の不正位置、第一大臼歯の萌出角度の異常、第一大臼歯・第二乳臼歯の形態異常、第一大臼歯萌出の場の不足等が挙げられる。
- ⑤ Young は、第一大臼歯の異所萌出状態をその予後から2型に分類している。
 - ・ジャンプタイプ：萌出過程で隣接する第二乳臼歯の歯根を吸収し、一時的に第二乳臼歯の遠心部にかかっているが、自然に外れて正常位置に萌出してくるもの。
 - ・ホールドタイプ：萌出過程で隣接する第二乳臼歯の歯根を著しく吸収し、第二乳臼歯の下部にかかってその位置に留まったり、第二乳臼歯を脱落させてしまうもの。

【第一大臼歯異所萌出に対する処置法】

第一大臼歯の異所萌出に対する処置には、第二乳臼歯を保存する方法と第二乳臼歯を抜歯し、その後第一大臼歯を正常位置に誘導する方法がある。

- ①第二乳臼歯を保存する方法としては、
 - ・第二乳臼歯の歯根吸収が軽度で動揺が少ない場合に、プラスワイヤー、安全ピン型スプリング矯正用セパレーティングゴムなどを用いて、第一大臼歯と第二乳臼歯の歯間分離を行い、第一大臼歯の萌出方向を正常に誘導する方法。
 - ・乳臼歯部に弾線を鑲着した矯正用既製バンドあるいは既製金属冠を装着し弾線の作用により第一大臼歯を遠心移動させ、正常位置に誘導する方法。本法では、一般に固定源として第二乳臼歯を用いるが、異所萌出部位の第二乳臼歯の歯根吸収が著しい場合には口蓋（舌側）弧線装置を用いて反対側の乳臼歯部にも固定を求めるのが得策である。
 - ・第二乳臼歯遠心面を削除することにより、第一大臼歯をその部に沿って萌出してくるようにする方法。本法により第一大臼歯が萌出したとしても第二乳臼歯遠心面を削除した分だけ第一大臼歯は近心移動することになるため、推奨すべき方法ではない。
- ②第二乳臼歯の歯根吸収が著しく、保存不可能な場合、第二乳臼歯を抜歯し、その後第一大臼歯を正常位置に誘導する方法がある。第一大臼歯の誘導にはアダムススプリングや遠心移動用スクリューを付与した可撤性床型空隙回復装置が用いられる。

障害児・者歯科シンポジウム：1都4県口腔保健センターにおける 障害児者歯科医療の取り組みと課題 障害児者歯科医療における口腔保健センターの果たすべき役割

石井拓男

東京歯科大学副学長・社会歯科学研究室

我が国の障害者に対する歯科医療の提供は、歯科医師会が牽引する形で始まり今日に至っている。その発展は、いわゆる口腔保健センターの設置と軌道を一にして進んできた。歯科界が、歯科診療所を中心とした歯科医療提供ではカバーしきれない患者に対し一步を踏み出したのは昭和40年代に入ってからであった。日本歯科医師会が、昭和46年（1971）に社会保障制度審議会の医療保険制度の改革に対し、日本歯科医師会の意見大綱をだしたが、その中で心身障害者精神病等の歯科医療の困難さを十分考慮した特別加算の新設を要望した。このような制度化へ向けての動きとは別に、昭和41年（1966）の大阪府歯科医師会の肢体不自由児歯科診療所の開設から始まる、今日の口腔保健センターの設置への展開が始まった。この障害児のための歯科医療の提供という新たな試みは、障害児の親の会とその声を反映した地方自治体の要望に歯科医師会が応えるという形で生まれたものであった。

いわゆる口腔保健センターは、昭和46年（1971）に厚生大臣の諮問機関として設置された「歯科保健問題懇談会」の報告書に、地域口腔保健センターの設置が明記されたことから、全国的に展開するという状況となった。この地域口腔保健センターは、自治体もしくは歯科医師会が設置しその助成を講ずる必要があるとされた。また、センターは、一般歯科医療機関において対応が困難とされる心身障害児や住宅病弱老人などの治療を行うこと等の機能が上げられていた。口腔保健センターの設置と、障害児者の歯科医療提供の推進が一体となって進展した原点がここにあったのである。

日本歯科医師会では、公衆衛生委員会が地域歯科医療について大綱を示し、口腔保健センター対策として心身障害者対策委員会と連携して、口腔保健センター研修会を立案し実施した。また、口腔保健対策臨時協議会を設置し知己口腔保健センターの機能について検討し報告している。昭和50年代のことであった。障害児者の歯科医療についても、このころから更にその後まで、日本歯科医師会では種々検討がなされた。平成に入り、口腔保健センターと障害児者の歯科医療について、日本歯科医師会の対応は少なくなったようである。一般歯科医療機関で対応困難な事柄について対応するのが、口腔保健センターの機能であるという路線から、要介護者への歯科医療提供が多くなってきている。日本歯科医会として、いわゆる口腔保健センターの機能についてもう一度検討する時期にあるように思われる。

障害児・者歯科シンポジウム：1都4県口腔保健センターにおける 障害児者歯科医療の取り組みと課題 群馬県：歯科総合衛生センターにおける 障害児者歯科医療の取り組みと課題

辻野啓一郎

群馬県歯科総合衛生センター指導医，東京歯科大学小児歯科学講座

〈二次医療機関であるセンターの歯科医療体制〉

群馬県には二次医療機関として，県歯科医師会が中心となった歯科総合衛生センターが前橋市に，地域が主体となったセンターが富岡甘楽，館林邑楽にあり，計3カ所が存在する。

群馬県歯科総合衛生センターは，昭和49年に設立され，群馬県内の障害者歯科診療にあたっている。昨年まで，歯科医師1日1名の交替制をとっていたが，マンパワーの不足から，日々の治療をこなすことが中心で，週2日歯科麻酔学会認定医が勤務しているにも関わらず，対応法は行動療法と抑制のみという状況であり，質の高い診療を行って行くことが難しい環境にあった。

24年度から歯科医師2名体制となり，昨年7月より静脈内鎮静法を行うようになった。現在のところ週に2例程度，静脈内鎮静法を行っている。対応法に選択肢ができたことで術者，患者，保護者が快適に治療を受ける段階が向上したと考えられる。

〈三次医療機関の不足〉

県内では，障害者歯科を行う三次医療機関の不足が大きな問題となっている。群馬県には県立小児医療センターがあり，障害児に関しては全身麻酔が必要な患者や，全身状態の問題から歯科治療に際しフォローアップが必要な患者を受け入れているが，成人障害者の受け入れが社会問題化している現状がある。

この点を解決する方策として，三次医療機関としての機能が期待できる近隣の医療機関の特性を把握し，対応可能と思われる医療機関を症例ごとに選択，連携を依頼することとした。

さらに時期を同じくして群馬県が中心となり，群馬県心身障害児（者）歯科医療体制検討協議会が発足し，三次医療機関としての機能を持ち得る病院歯科でその役割を担ってもらうという動きが起こった。これらの流れから，新たに高崎総合医療センターで全身麻酔下での歯科治療が開始されることが決定した。

〈一次医療機関との連携〉

二次医療機関と一次医療機関との連携は良好といえるものではなく，逆紹介にも苦慮する状況があった。この点については県歯科医師会が積極的に取り組むこととなり，昨年9月より，各地区における障害者歯科保健の中核となる歯科医師（障害者歯科診療協力医）を養成することに着手し研修会を行っている。来年度以降，実習や臨床研修を行う予定となっており，各地域の一次医療を担える障害者歯科医がいてセンターと連携をしていくことを目標にしていくこととなる。

障害児・者歯科シンポジウム：1都4県口腔保健センターにおける 障害児者歯科医療の取り組みと課題 埼玉県：口腔保健センターにおける障害児者歯科医療の取り組みと課題

高野宏二

埼玉県歯科医師会口腔保健センター

埼玉県歯科医師会口腔保健センター（以下センター）は、障害者や要介護者に対する歯科医療の提供を目的として、平成13年4月に開設した。以来、埼玉県の支援を受け、埼玉県歯科医師会が運営し、県の障害者歯科二次医療機関としての役割を担っている。

現在、歯科医師3名、歯科衛生士8名、助手1名、歯科ユニット7台の診療体制で、午前中に全身麻酔を、午後に静脈内鎮静法を各1例ずつ施行している。また、平成18年度からは、非常勤歯科医師による発達障害と中途障害に対する摂食嚥下指導を始めた。

センターの総登録患者数は、約4,800名、平成24年度の延べ患者数は7,635名で、年々増加している。年齢層は、乳児から90歳代まで幅広いが、近年高齢者の比率が減少傾向にある。

新規患者の来院経緯は、歯科からの紹介が最も多く毎年5割前後だが、直接の来院も2～4割ある。また、医科機関や施設からの紹介もみられる。

患者の居住地はセンター所在のさいたま市が毎年7割を占める。

障害の内容は、知的障害、広汎性発達障害、脳性麻痺、てんかん、脳血管障害後遺症が多くみられる。

全身麻酔は、毎年105～190例、静脈内鎮静法は117～239例と各年度でばらつきがみられる。

近年は、治療終了後の定期通院患者の増加に伴い、予防処置、定期検診が増加して診療に支障を来しかねない状況である。これを改善することが喫緊の課題であり、一次医療機関との連携を深めて相互に患者を診療するシステムの見直しを行っている。

一方で、センターには研修施設としての役割もある。これまでに弊社地域保健部との共催も含め以下の障害者歯科研修を開催した。

- ①障害者施設関係者・特別支援学校教諭等を対象とした介護担当者口腔ケア研修会
- ②介護支援専門員・介護施設関係者等を対象とした介護支援専門員口腔ケア研修会
- ③歯科衛生士に対する障害者歯科研修会
- ④開業歯科医師、勤務歯科医師を対象とした障害者歯科臨床研修会など

修了により埼玉県の障害者歯科相談医に指定され、平成25年12月までに382名が登録されている。

障害者歯科を行う上で、一次医療機関と二次医療機関との連携は必須であり、研修施設としての役割も今後さらに重要になるものと考えている。

障害児・者歯科シンポジウム：1都4県口腔保健センターにおける 障害児者歯科医療の取り組みと課題 東京都：東京都立心身障害者口腔保健センターにおける 障害児者歯科医療の取り組みと課題

山口さやか

東京都立心身障害者口腔保健センター

東京都立心身障害者口腔保健センターは東京都の「指定管理者制度」により東京都歯科医師会が指定管理者として事業（診療・教育研修・情報管理）を受託し、地域の医療機関では対応が困難な障害者の口腔保健の向上を目的に運営している。患者の治療に対する適応性が向上し、患者との十分な相互理解のもとで、将来的に住み慣れた身近な地域にある歯科医療機関で受診が可能となることを目指している。初診来院時に紹介状を持参した患者を、治療終了後に紹介元へ返送することが理想であるが、紹介状を持参せずに来院するケースも多い。

当センターでは昭和58年開設以来、約30年間にわたり教育研修事業としてかかりつけ医育成のために個別研修を実施している。3日間の基礎コース受講後、アドバンスコースとして臨床実習を伴う7日間の研修を終了した者から協力医を募る協力医制度を実施し現在約100名が協力医として登録されている。センターから協力医に患者を逆紹介するために、協力医に対して事前調査を行い、受け入れ条件に適した患者を紹介している。しかし、都内に協力医が偏在しているため、必ずしも患者の希望する地区に該当した協力医がいるとは限らず、紹介に至らないことがある。

当センターで実施した平成25年度の患者基本調査での通院年数比率（抽出調査）は通院年数10年以上が43%と最も多く、次いで10年未満が15%であり、通院歴9年以上が58%であった。この中には患者の治療への適応性が向上し、地域で受診可能な患者が含まれている可能性もある。将来的に保護者、介護者の高齢化に伴い通院が困難になることを見据えて早期から地域での受診に慣れることが望まれる。平成25年度来院中断患者アンケート調査結果からも保護者、介護者の年齢で60歳以上が49.5%を占めていた。また、現在、口腔内に問題をもちながら来院中断し、今後も当センターでの受診希望がある者が36名(36.8%)であった。現在、通院中の患者に対しても障害者歯科において定期的な口腔管理の重要性を伝えることが必要と思われた。

今後の課題として、

- ①長期通院し地域にもどる時期を逃さないように患者の固定化の改善
- ②来院中断患者の受診行動の喚起と定期的な歯科予防管理の必要性への理解
- ③歯科医療連携システムの構築があげられる。

連携機能を果たしつつ、障害者歯科医療の充実が図れるよう努めていきたいと考えている。

障害児・者歯科シンポジウム：1都4県口腔保健センターにおける 障害児者歯科医療の取り組みと課題 千葉市：千葉市総合保健医療センターにおける 障害児者歯科医療の取り組みと課題

小峯久直

千葉市歯科医師会障がい者歯科保健委員会

千葉市民の声を背景に、千葉市歯科医師会で約3年の準備期間を経て平成5年4月、千葉市総合保健医療センターにおける障がい児（者）診療所が開業医と大学の間の1.5次医療機関として、開設された。千葉市全域より多くの障がい児（者）が治療や定期健診を希望し、千葉市総合保健医療センター内休日救急診療所に毎週木曜日の午前中に来院している。千葉市では、事業の運営は千葉市歯科医師会独自ではなく社団法人千葉市保健医療事業団からの委託で行われている。治療は千葉市歯科医師会障がい者歯科保健委員11名と歯科医師会会員から募集した協力医で行っている。

千葉市総合保健医療センターは平成17年6月より日本障害者歯科学会の研修施設として認定を受けている。そのため協力医が障がい者歯科学会認定医を取得することができ、平成24年までに14名の認定医を輩出している。診療は、委員と協力医の輪番制である。この制度の利点としては、患者の治療計画に際し、複数の先生による検討が計れるので多面的な治療を導くことが出来る。治療内容によっては、協力歯科医に在籍している専門医に治療を依頼できることがあげられる。一方、欠点としては、患者さんとの継続的な信頼関係を築くことが出来ず、トレーニングが難しい。患者や保護者へのインフォームドコンセントや、今回の治療に関して歯科医師と衛生士間の引継ぎを明文化する必要がある点があげられる。

治療体制としては、通常治療、静脈内鎮静、全身麻酔下による歯科治療と幅広く行っているので患者に合わせた治療法を選択することが出来る。

平成15年から平成24年の10年間の年平均総患者数は456.5人であり、このうち初診患者数は49.4人、一日平均来院患者数は10.6人だった。リコール人数は78.2人で総患者数の24.5%を占めていた。また、静脈内鎮静および麻酔下で治療を行った患者は、平均68.4人、日帰り全身麻酔は7人であった。これに対し、治療を行う協力医数は52人で、全会員の10.7%に当たる。

今後の課題としては、予約の取り難さ、リコール患者の増加、受診者やリコール患者の高齢化、2次カリエスによる補綴物のやり直しや歯周病の治療と管理への対応策、保護者への歯磨き指導及び患者への実践の充実、リコールシステムの確立、歯科医師間における治療の質の標準化、リコール協力医の拡充などがあげられる。

一方、運営費は行政から予算として受けているのでなかなか思い通りに行かないのが現状であるが、1.5次医療機関として、大学と患者のネットワークの強化を図るため、一層の改善を目指すものである。

障害児・者歯科シンポジウム：1都4県口腔保健センターにおける 障害児者歯科医療の取り組みと課題 茨城県：身体障害者小児歯科治療センターにおける 障害児者歯科医療の取り組みと課題

大森勇市郎

茨城県身体障害者小児歯科治療センター

茨城県歯科医師会は、茨城県身体障害者小児歯科治療センター（略称：水戸口腔センター）と土浦心身障害者歯科治療センター（略称：土浦歯科治療センター）を運営し、県内44市町村に在住する障害児者の歯科診療を担っている。センターの取り組みと課題について述べる。

障害者歯科医療連携ネットワークの構築

両センターともに直近の患者数が増加傾向にあり、今後、この状況が継続した場合、診療に支障をきたす恐れがある。そこで、障害者を受け入れる歯科診療所、病院歯科、近県の歯科大学病院との連携を深め、患者さんを相互に受け入れる体制作りを推進してきた。平成24年9月、センターを中心に障害者歯科医療連携ネットワークが構築され、125名の協力医が登録された。今後の課題は、協力歯科医師数の底上げと協力医の障害児者歯科医療に必要な知識・技能・態度の研修により、障害者歯科診療の質の向上を図ることである。

スペシャルニーズへの対応

水戸口腔センターでの摂食嚥下リハビリテーション外来および静脈内鎮静歯科治療の患者数は、導入後いづれも急激に増加してきたが、すでに摂食嚥下リハビリテーション外来は飽和状態にある。また、現在他院へ紹介している静脈内鎮静法でも対応できない患者への取り組みが必要となってきた。そこで、水戸口腔センターへの全身麻酔の導入と摂食嚥下研修会の開催を計画し、日帰り全身麻酔は来年度から導入予定である。摂食嚥下研修会は26年度で3年目を迎え、他職種からも多数の参加を得ている。今後は全身麻酔時の安全性の向上と摂食嚥下リハビリテーション学会認定士の育成が課題である。

診療外機能（教育・研修、情報発信）の強化

診療外活動の学会発表、講演会開催はすでに多数にわたり、会員向けには、センター便りという形で情報発信をしている。また、水戸口腔センターおよび土浦歯科治療センターは日本障害者歯科学会の臨床研修施設認定を受けており、県内の若手歯科医師および歯科衛生士を対象に教育・研修をおこなう役目も担っている。今後は、障害者歯科医療連携ネットワークの協力医への研修として①7科目10時間の講義、②口腔センターでの症例見学、③歯科医学会での症例発表、④センターでの自院患者治療を検討準備中である。

II. 土浦心身障害者歯科治療センター（土浦歯科治療センター）

発表 No.1

ビデオ画像解析による正常乳児における吸啜運動の観察

高木伸子¹，定岡 直¹，牧 茂¹

たかぎ歯科（土浦石岡歯科医師会）¹，松本歯科大学口腔衛生学講座²

【緒言】

本研究は「乳児の哺乳行動の発達を解明することを目的に，直母哺乳運動が経時的にどのように変化するか」について検討した．今まで吸啜パターンの解析を行った研究は，様々な視点から行われているが，乳児個人の直母哺乳の経時変化について報告されたものは見あたらない．肉眼的に吸啜運動を評価する方法を確立するために，ビデオ撮影を用いて直接授乳における吸啜パターンの経時的特徴を明らかにした．

【方法】

被験者は，母乳で保育されている，仮死，奇形などの合併症のない健康な正期産児 13 人，（男児 10 人，女児 3 人）を対象にした．保護者に研究の趣旨と計画について十分説明し全て同意を得た（松本歯科大学倫理審査委員会承認番号 0160 号）．

それぞれの児において，生後 1 週間以内，生後 1 か月，生後 3 か月，生後 5 か月の計 4 回通常の母乳授乳における吸啜運動を撮影した．その映像を，2 次元運動解析ソフトを用いて下顎運動の動的解析を行った．哺乳運動の観察は，前回哺乳後，1 時間以上経過した空腹時に行った．

【結果】

- ①吸啜リズムは，3 か月以降では吸啜が持続している区間（burst）と休止の区間（pause）の明瞭な吸啜行動が見られなくなった．
- ②吸啜運動時の下顎の変位量は，月齢に伴って増加する．
- ③吸啜運動時の開口・閉口速度は，閉口時は開口時より速度が速かった．また，月齢に伴い開口時，閉口時ともに速度が速くなった．
- ④サイクル時間は，成長に伴う有意な変化は認められなかった．3 か月時が最も個人差がなく，安定した哺乳行動がみられた．
- ⑤乳児の吸啜運動を非侵襲的に観察・評価する方法を確立するための基礎研究として，同じ乳児を追跡して撮影し，動作解析ソフトを用いて乳児の吸啜パターンの経時変化を明らかにすることができた．

土浦心身障害者歯科治療センターにおける年齢別、 障害別来院状況について

丸山容子¹，梅澤幸司^{1,2}，伊藤 梓^{1,2}，高木伸子^{1,3}，坂巻ますみ¹，竹中京子¹，木村貴子¹

石居由香¹，狩野晴美¹，村居幸夫¹，征矢 亘¹，森永和男¹

茨城県土浦心身障害者歯科治療センター¹，日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座²

たかぎ歯科（土浦石岡歯科医師会）³

【緒言】

茨城県土浦心身障害者歯科治療センター（土浦歯科治療センター）は、平成3年8月に開設され、22年が経過した。県内各地区より毎年、障害児・者の初診、再初診患者が治療および定期検診目的にて来院する。これらの患者について、年齢別、主たる障害（基礎疾患）別来院状況について調査したので報告する。

【結果】

- ①9年間の年齢別来院者数は、7歳から12歳が最も多く21%、次いで、13歳から19歳および20歳から29歳が20%となっている。
- ②男女別では、7歳から12歳男性、13歳から19歳男性がそれぞれ14%で最も多く、次いで、20歳から29歳男性が13%、30歳から39歳男性が9%、そして、女性の7歳から12歳、20歳から29歳、30歳から39歳がそれぞれ7%であった。
- ③障害の種類では、最も多くみられたのは自閉症が3,778名（37.0%）、次いで、精神発達遅滞が2,189名（21.5%）、脳性まひが983名（9.6%）、ダウン症が826名（8.0%）であった。
- ④平成17年、18年では、精神発達遅滞の患者が最も多かったが、その後、自閉症が増え平成19年に逆転し、2倍、3倍になっている年もある。てんかんは、501名（4.9%）と低い割合であるが、多くの患者は、ほかの障害とてんかんを重複するケースが多く、てんかんを有する患者の割合は多いと思われる。また、最近では、歯科治療に対する恐怖による治療困難な患者が、一般歯科医院からの紹介、または、インターネット検索等により増えている。

【考察およびまとめ】

当センターには小児の受診が3割近くを占めた。この時期は、乳歯の治療で、多数歯にわたるカリエスがあった場合でも、永久歯へのはえかわりにより、定期検診、口腔ケア、初期のカリエス処置ですむ患者が多い。しかし、中には、永久歯においても多数カリエスの治療が必要となる患者もあり、患者と保護者への生活習慣、口腔ケアの重要性を伝えていく義務があると痛切に感じる。

また、当センターにおける統計方法は、20年近く変わらずに行われている。現在の集計は主たる障害（基礎疾患）で分類しているが、障害者においては複数の疾患を有するケースが多いため、今後はより実態を反映する分類法を行う必要があると思われる。

5. 講演会・研修会

I. 身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

1) センター主催の講演会

No.	題 名	演 者	講演会名	年月日
1	求められる歯科医師と大学の対応	杉山 哲也	心身障害者（児）の歯科予防講習会（水戸）	平成 25 年 6 月 9 日
2	知的障害児・者における歯科的問題行動について	渡辺 佳樹		
3	歯科衛生士としての口腔保健と社会活動を通じての口腔保健について	大内 千裕		

2) その他の講演会

(1) 摂食嚥下研修会

No.	題 名	演 者	主 催	年月日
1	講義 食べるための構造とメカニズム	三田村佐智代	茨城県歯科医師会	平成 25 年
2	講義 哺乳・離乳期の発達とその障害			8 月 27 日
3	講義 自食機能の発達とその障害			10 月 1 日
4	実習 摂食嚥下機能訓練の実際①			10 月 22 日
5	実習 摂食嚥下機能訓練の実際②			11 月 12 日
6	摂食嚥下機能障害への対応 ー各障害における摂食指導の実際ー			12 月 3 日 平成 26 年 1 月 21 日

(2) 茨城県特別支援学校強化事業

No.	題 名	演 者	主 催	年月日
1－4	〈水戸飯富特別支援学校，内原特別支援学校，境特別支援学校，水戸特別支援学校〉 食事（摂食・嚥下）指導に関する専門性の向上のための研修会 内容：安全な食事をするために	三田村佐智代 野村 美奈	教育庁 特別支援教育課	平成 25 年 7 月 4 日 7 月 11 日 8 月 2 日 8 月 28 日
5－8	〈水戸飯富特別支援学校，内原特別支援学校，境特別支援学校〉 水戸特別支援学校実践研究 1 回目 内容：障害特性や発達段階に応じた摂食嚥下指導の実際，事例検討会，食事に関する相談業務	三田村佐智代 野村 美奈		平成 25 年 9 月 11 日 9 月 25 日 10 月 9 日 10 月 30 日

No.	題 名	演 者	主 催	年月日
9 - 15	〈水戸飯富特別支援学校，水戸特別支援学校，結城特別支援学校，内原特別支援学校，境特別支援学校〉 協和特別支援学校実践研究 2 回目 内容：「障害特性や発達段階に応じた摂食嚥下指導の実際，事例検討会，食事に関する相談業務」	野村 美奈 鈴木 哉絵	教育庁 特別支援教育課	平成 25 年 11 月 27 日 12 月 4 日 12 月 11 日 11 月 12 日 12 月 18 日 平成 26 年 1 月 22 日 2 月 5 日

3) 地域講演会

No.	活動内容	参加者	場 所	年月日
1	食べる機能を育てるための食事指導研修会	野村 美奈	茨城県立水戸聾学校	平成 26 年 2 月 12 日
2	心身障害児療育センターにおける保護者勉強会	野村 美奈 鈴木 哉絵	ひたちなか市総合福祉センター 野蒜かなりや教室	平成 26 年 2 月 26 日
3	障がい児を含めた子どもの特徴を理解して効果的なむし歯予防を考えよう	関口 浩	茨城県土浦保健所	平成 26 年 2 月 28 日

Ⅱ. 土浦心身障害者歯科治療センター（土浦歯科治療センター）

1) センター主催の講演会

No.	題 名	演 者	講演会名	年月日
1	障害児・者の口の使い方、噛むことと健康	岡崎 好秀	心身障害者（児）の歯科予防講習会（土浦）	平成 25 年 11 月 3 日

2) その他の講演会

(1) 茨城県特別支援学校強化事業

No.	題 名	演 者	主 催	年月日
1	〈下妻特別支援学校〉 教職員対象 よく噛む子に育てるには ～発達過程と遊びの工夫～	高木 伸子	教育庁 特別支援教育課	平成 25 年 7 月 10 日
2	保護者対象 よく噛む子に育てるには ～簡単調理の実際～	手塚 文栄		7 月 10 日
3	教職員向け 摂食指導の実際 今日の事例を通して その 1	高木 伸子		10 月 3 日
4	教職員向け 摂食指導の実際 今日の事例を通して その 2	高木 伸子		平成 26 年 1 月 22 日
5	〈つくば特別支援学校 A 部門（知的障害）〉 教職員対象 よく噛む子に育てるには ～発達過程と遊びの工夫～	手塚 文栄		平成 25 年 8 月 1 日
6	〈つくば特別支援学校 B 部門（肢体不自由）〉 教職員対象 よく噛む子に育てるには ～発達過程と遊びの工夫～	高木 伸子		平成 25 年 8 月 8 日
7	保護者対象 よく噛む子に育てるには ～簡単調理の実際～	手塚 文栄		8 月 8 日
8	教職員向け 摂食指導の実際 今日の事例を通して その 1	高木 伸子		11 月 14 日
9	教職員向け 摂食指導の実際 今日の事例を通して その 2	高木 伸子		平成 26 年 1 月 29 日
10	〈美浦特別支援学校〉 教職員対象 よく噛む子に育てるには ～発達過程と遊びの工夫～	高木 伸子		平成 25 年 8 月 9 日
11	保護者対象 よく噛む子に育てるには ～簡単調理の実際～	手塚 文栄		8 月 9 日
12	教職員向け 摂食指導の実際 今日の事例を通して その 1	高木 伸子		9 月 5 日
13	教職員向け 摂食指導の実際 今日の事例を通して その 2	高木 伸子		12 月 12 日

(2) 地域多職種連携で摂食嚥下障害支援を行っていくための勉強会

No.	題 名	演 者	主 催	年月日
1	多系統萎縮症の事例検討	新館綾乃神立病院	土浦摂食	平成 25 年
2	K 君の摂食と栄養管理	PT 渡辺 章充 (土浦協同病院医師)	カンファ レンス	4 月 12 日 5 月 10 日
3	患者さんにモチベーションを上げるコミュニケーションの工夫	川澄 圭子 (塙歯科医院 DH)		6 月 14 日
4	パンを好きだった方にこれからパン食の毎日を ～らくらく食パン～の紹介	三山 雅代 (タカキ ヘルスケアフーズ代 表取締役社長)		7 月 12 日
5	看護師ができるミルサーを使った嚥下食指導	古田 良恵 (牛久セ ントラル病院認定 NS)		9 月 13 日
6	卵の話	越藤氏 (キューピー株式会 社 栄養士)		11 月 8 日
7	入浴の医学	安岡 利一 (日立製 作所多賀総合病院副 院長)		11 月 8 日
8	摂食嚥下障害のメカニズム (球麻痺, 仮性球麻痺, 一側性大脳病変等の特徴) および症例報告	市村 和大 (市村歯科・歯科医師)		12 月 13 日
9	ST が行う小児のリハビリテーションについて	岩崎 淳也 (茨城県 言語聴覚士会副会長)		平成 26 年 3 月 14 日

(3) 専門職への啓発活動

No.	題 名	演 者	主 催	年月日
1	障害を持つ子どもたちの口の中と摂食機能	高木 伸子	茨城における小児の発達を 支える地域リハビリテー ションを考える会	平成 25 年 5 月 24 日
2	「食べる」に活かすシーティング技術	高木 伸子	リハビリテーション 天草病院	10 月 21 日
3	リハビリ装具としての義歯～口腔の不随意 運動が改善した例～	高木 伸子	茨城県総合リハビリテー ション学会	12 月 2 日

(4) 専門職への啓発活動

No.	題 名	演 者	主 催	年月日
1	歯科保健指導についての講義	竹中 京子	茨城歯科専門学校	平成 25 年 4 月 28 日～ 6 月 21 日
2	くるみ館 実習指導	竹中 京子	茨城歯科専門学校	10 月 16 日
3	国家試験対策補習	竹中 京子	茨城歯科専門学校	12 月 13 日
4	障害者歯科学講義	梅澤 幸司	広沢学園取手校	6 月 26 日 7 月 11 日 7 月 28 日
5	臨床実習	梅澤 幸司	広沢学園取手校	11 月 5 日～ 11 月 27 日
6	国家試験対策補習	梅澤 幸司	広沢学園取手校	平成 26 年 1 月 8 日 1 月 22 日

6. 講演会・研修会・シンポジウム要旨

茨城県歯科医師会主催 心身障害者歯科講習会のお知らせ

日 時 平成 25 年 6 月 9 日 (日) 13:30~15:30

会 場 茨城県歯科医師会館 3F 講堂 (水戸市見和 292-1)

演題及び講師

『求められる歯科医師と大学の対応』

東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科

*プロフィール

昭和 58 年 東京歯科大学卒業

平成元年 東京歯科大学大学院 (歯科補綴学) 修了

歯科補綴学第一講座助手

平成 5 年 東京歯科大学歯科補綴学第一講座講師

平成 20 年 東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション
・地域歯科診療支援科講師

杉山 哲也 先生



*講師からのメッセージ

75 歳を境に歯科医院の受療率が減少していくというデータがあります。これは高齢になると歯科治療を必要としないということを表しているようにもみえます。しかし現実には、在宅や高齢者の施設において様々な形での役割が歯科に求められているのです。超高齢社会に突入した現在、社会から要求される歯科医療と、その要求に応えられる歯科医師の養成機関としての大学の取り組みについてお話しさせていただきたいと思います。

『茨城県障害児者歯科医療の最前線』

(1) 障害児・者に対する歯科的管理の有用性と困難性について

*プロフィール

昭和 63 年 岐阜歯科大学 (現朝日大学) 歯学部卒業

昭和 64 年 愛知県心身障害者コロニー中央病院

平成 3 年 茨城県立コロニーあすなろ (現あすなろの郷) 病院
国立療養所晴嵐荘 (現国立病院機構茨城東) 病院 (非常勤)

平成 7 年 広澤学園つくば歯科衛生専門学校 (非常勤)

平成 20 年 広澤学園取手歯科衛生専門学校 (非常勤)

茨城県立あすなろの郷病院歯科

渡辺 佳樹 先生



*講師からのメッセージ

知的障害児者においては、これまで歯科治療の協力性やダウン症候群に代表されるような口腔内の特徴などについて、障害者歯科診療の問題点の多くを語られてきました。

今回は、健常者に観察されても不思議ではないが障害児・者にしかみられない自傷行為、異食、反芻などの問題行動についてお話できればと思います。

(2) 歯科衛生士としての口腔保健と社会活動を通じての口腔保健について

茨城県立あすなろの郷病院歯科

大内 千裕 歯科衛生士

*受講申し込み方法：参加申込書により、下記あてお申し込みください。

*茨城県身体障害者小児歯科治療センター (水戸口腔センター)

◎FAX: 029-215-2573 または TEL: 029-254-4177

※切り取らずにそのまま送ってください

参 加 申 込 書

FAX 番号 029-215-2573

※6 月 3 日までにお申し込み下さい

氏 名	所 属	職 種	電 話・Fax
			Tel Fax
			Tel Fax

～障害児・者の食べる機能を育てるために～ 摂食嚥下研修会

食べる機能は生まれながらにして備わっているものではなく、学び育っていく過程で獲得していきます。しかしながら、何らかの原因によって食べる機能を上手に獲得することができず、食べる事が苦しかったり、生命を脅かす状況となったりする場合があります。そのため早期から適切な食環境指導、食内容指導、機能訓練が必要であり、障害児・者に関わる支援者がこれらの知識や技術を習得することが求められています。

この研修会は、地域の多くの職種の方々に、摂食嚥下の基礎的な知識から応用技術まで学んでいただくことにより、共通理解のもとに障害児・者の食べることへの支援を行うことを目的として実施します。

☆ 開催日時：H25 年 8 月～H26 年 1 月までの 全 6 回 ※下記プログラムのとおり

☆ 開催場所：茨城県歯科医師会館 3F 講堂（水戸市見和 2-292-1）

【講 師】 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座 林 佐智代 先生
茨城県身体障害者小児歯科治療センター

講師プロフィール

日本障害者歯科学会認定医

日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士
（歯科医師）

千葉県歯科医師会 摂食指導医

松戸こども発達センター 摂食指導医

八千代特別支援学校 非常勤講師（摂食）

野田特別支援学校 非常勤講師（摂食）

***スタッフ** 茨城県身体障害者小児歯科治療センター所属歯科衛生士

【H25 年度プログラム】

月 日	時 間	内 容	
H25 8月27日(火)	午後 6:20～7:50	第1回 講義	・食べるための構造とメカニズム
10月 1日(火)	午後 6:20～7:50	第2回 講義	・哺乳・離乳期の発達とその障害
10月22日(火)	午後 6:20～7:50	第3回 講義	・自食機能の発達とその障害
11月12日(火)	午後 6:20～7:50	第4回 実習	・摂食嚥下機能訓練の実際 ①
12月 3日(火)	午後 6:20～7:50	第5回 実習	・摂食嚥下機能訓練の実際 ②
H26 1月21日(火)	午後 6:20～7:50	第6回 講義	・摂食嚥下機能障害への対応 ー各障害における摂食指導の実際ー

☆ 対 象：茨城県内の障害のある者に関わる職種の方

☆ 定 員：100名 ※お早めにお申し込みください

☆ 受講申し込み方法：裏面の申込書にて、一人一枚ずつお申し込みください

* 問い合わせ先 *

茨城県歯科医師会館内
茨城県身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

◎FAX:029-215-2573 または TEL:029-254-4177

～障害児・者の口の使い方,噛むことと健康～ 「世界で一番聞きたい歯と口の話」 ～進化から口の機能を考える～

■ 日 時：平成25年11月3日（日） 13時30分～15時30分（13時より受付開始）

■ 会 場：霞ヶ浦医療センター 講堂 土浦市下高津 2-7-14 電話 029-822-5050

■ 講 師：モンゴル健康科学大学 客員教授

＊略歴

1978年 愛知学院大学歯学部卒業
大阪大学歯学部小児歯科
1984年 岡山大学病院小児歯科講師（歯学博士）
2013年 モンゴル健康科学大学 客員教授

岡崎 好秀 先生



＊講師紹介

今回の話も、歯や口のふしぎについて深く掘り下げられながらも、わかりやすく身近に展開されてくれるだろう。

岡崎先生にその多くを教えてくれたのは、彼の患者さんたち、特に障がいを持った患者さんだ。単に歯を修復できただけでは、おいしく食べることにわずかしかな近づけない。そんな彼らと真剣に向き合い彼らの課す難問に答えようと、考え続け臨床の中で試行錯誤を重ねてきた。今後も岡崎先生の行くところ、こどもたちの笑顔と聴衆の笑い、そしてサプライズが待っていることは間違いない。

今日も、アッ！という間に講演が終了するだろう。

岡崎先生の紹介文より（林 昌司歯科医師：奈良市開業）

■ 対 象：養護教諭，幼稚園・保育園職員，施設職員，保健師，看護師，歯科医師，歯科衛生士 他

■ 受講料：無 料

■ 申込み方法：下記申込書により 10月25日までに下記あてに、お申し込み下さい

＊茨城県身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

◎FAX：029-215-2573 または TEL：029-254-4177

※切り取らずに、そのままFAX送信して下さい

研修会参加申込書

診療所名		住 所	
氏 名		職 種	
電話番号		FAX 番号	

第22回茨城県歯科医学会障害児者歯科公開シンポジウム

1都4県口腔保健センターにおける 障害児者歯科医療の取り組みと課題

日 時 平成26年2月9日(日) 午後1時～4時
会 場 水戸プラザホテル 〒310-0851 水戸市千波町2078-1
入 場 無 料

【シンポジスト】

- 講演1 障害児者歯科医療における口腔保健センターの果たすべき役割
石井 拓男 先生
(東京歯科大学副学長・社会歯科学研究室教授)
- 講演2 群馬県：歯科総合衛生センターにおける障害児者歯科医療の取り組みと課題
辻野 啓一郎 先生
(群馬県歯科総合衛生センター指導医・東京歯科大学小児歯科学講座講師)
- 講演3 埼玉県：口腔保健センターにおける障害児者歯科医療の取り組みと課題
高野 宏二 先生
(埼玉県歯科医師会口腔保健センター診療科長)
- 講演4 東京都：東京都立心身障害者口腔保健センターにおける障害児者歯科医療の取り組みと課題
山口 さやか 先生
(東京都立心身障害者口腔保健センター教育研究室長)
- 講演5 千葉市：千葉市総合保健医療センターにおける障害児者歯科医療の取り組みと課題
小峯 久直 先生
(千葉市歯科医師会障がい者歯科保健委員会委員長)
- 講演6 茨城県：身体障害者小児歯科治療センターにおける障害児者歯科医療の取り組みと課題
大森 勇市郎 先生
(茨城県歯科医師会身体障害者小児歯科治療センター)



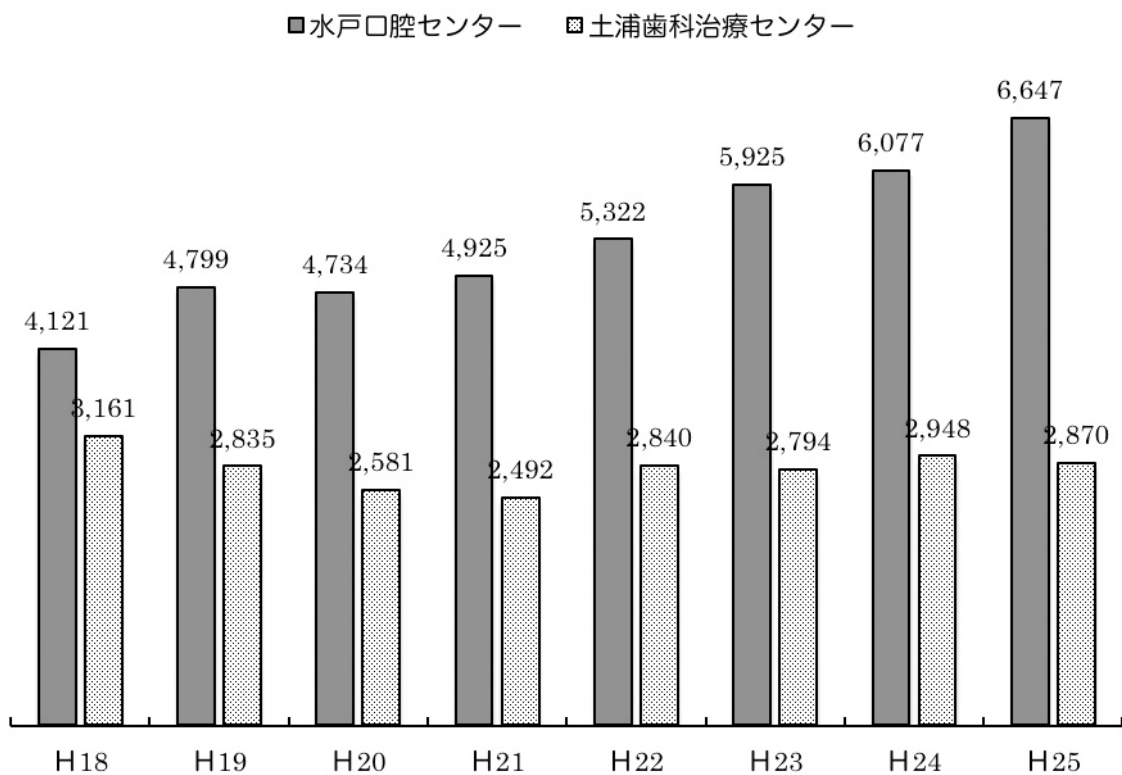
主 催 公益社団法人 茨城県歯科医師会

連絡先 茨城県身体障害者小児歯科治療センター 担当 関口 浩

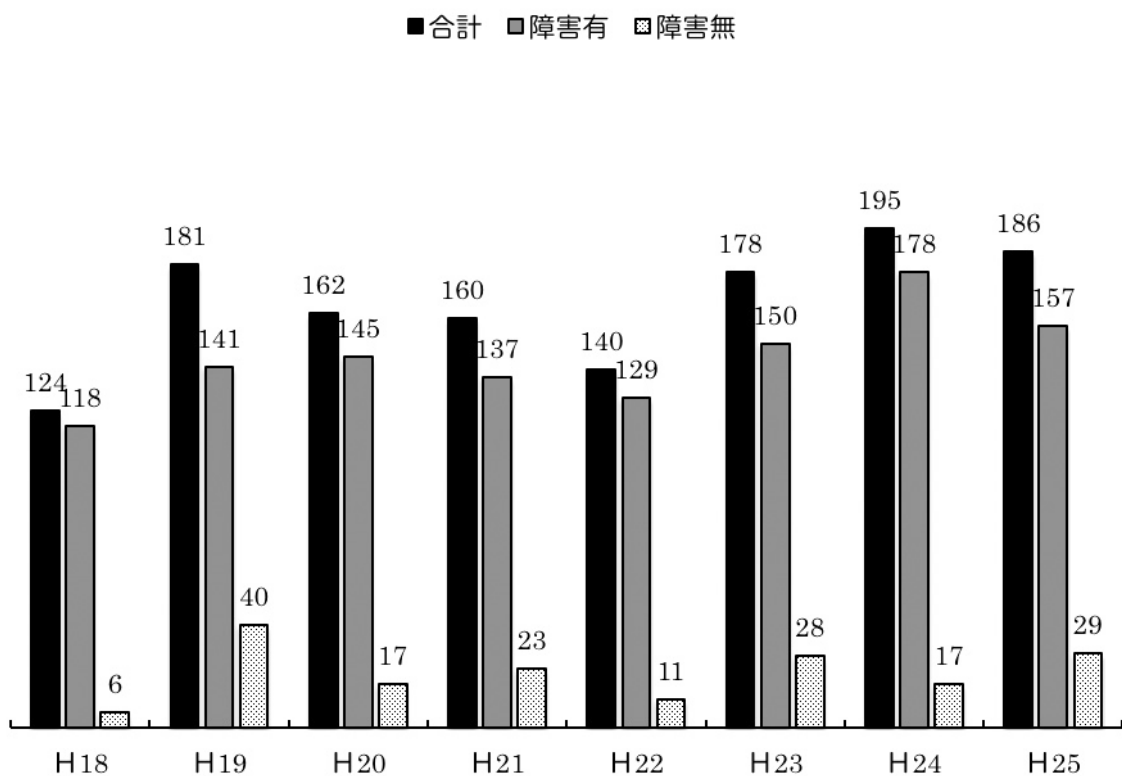
TEL.029-254-4177 Fax.029-215-2573 E-mail : center-mito@ibasikai.or.jp

7. 患者統計

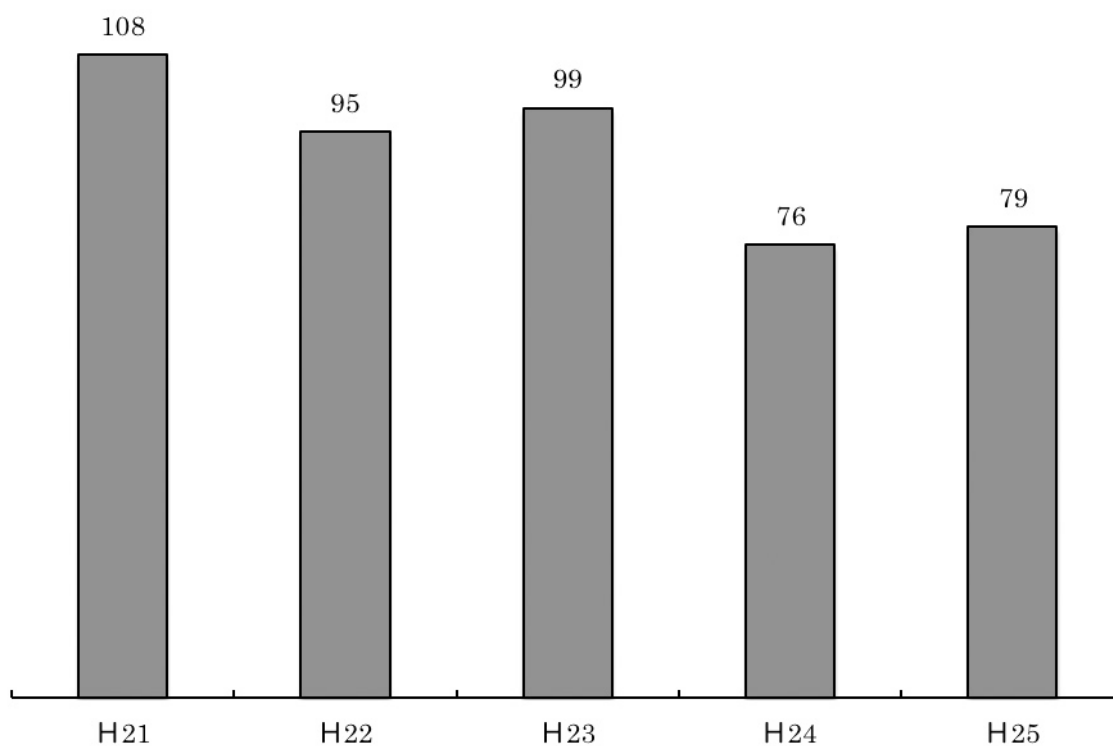
1) 口腔センターおよび土浦歯科治療センターにおける延べ患者数の年度別推移



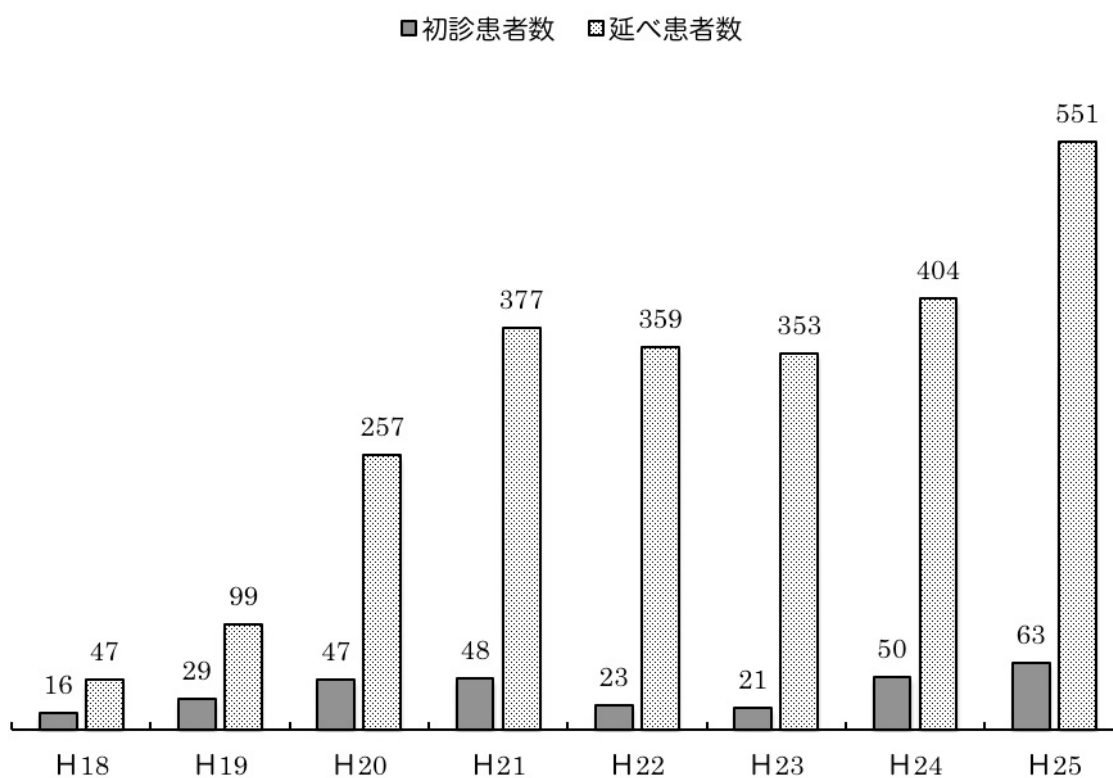
2) 水戸口腔センターにおける初診患者数の年度別推移



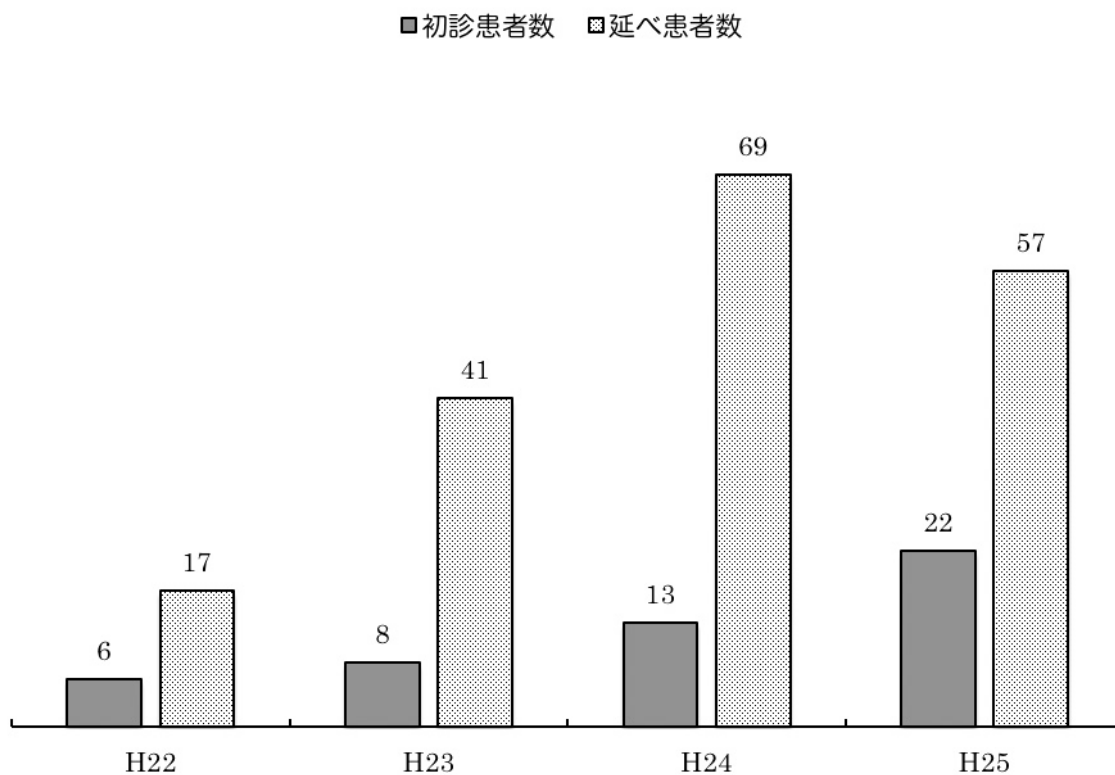
3) 土浦歯科治療センターにおける初診患者数の年度別



4) 水戸口腔センターにおける摂食嚥下リハビリテーションの新患・延べ患者数の年度別推移



5) 水戸口腔センターにおける静脈内鎮静歯科治療の新患・延べ患者数の年度別推移



8. 写真で綴るこの1年

A. 水戸口腔センター・土浦歯科治療センター合同打合せ会（於：霞ヶ浦医療センター）



前列左側より、丸山容子先生、征矢 亘専務理事、森永和男会長、関口 浩先生、高木伸子先生
後列左側より、高橋裕子歯科衛生士、鈴木哉絵歯科衛生士、鬼澤璃沙歯科衛生士
野村美奈歯科衛生士、大森勇市郎先生、木村貴子歯科衛生士、森永桂輔先生
伊藤 梓先生、梅澤幸司先生、竹中京子歯科衛生士、坂巻ますみ歯科衛生士
狩野晴美歯科衛生士



会議風景

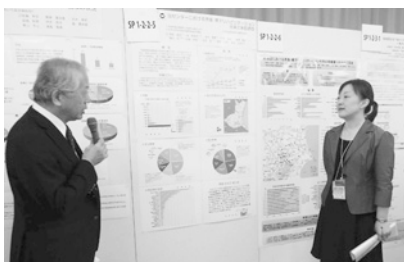
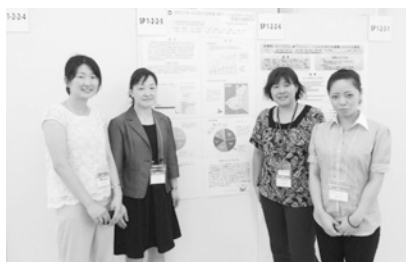
B. 学会

1. 第51回日本小児歯科学会大会



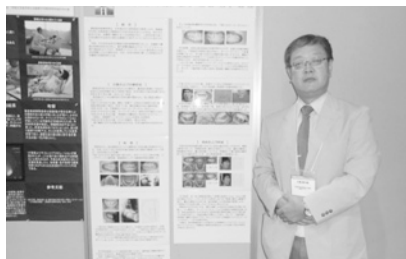
関口 浩先生 平成24年度 PEDIATRIC DENTAL JOURNAL 優秀論文賞を受賞

2. 第19回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

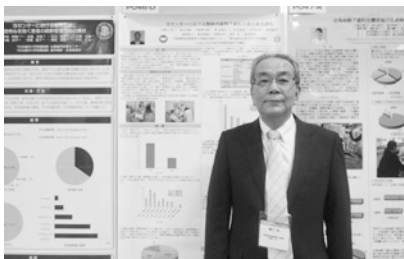


演者 野村美奈歯科衛生士と共同演者（三田村佐智代先生、鈴木哉絵と鬼澤璃沙歯科衛生士）

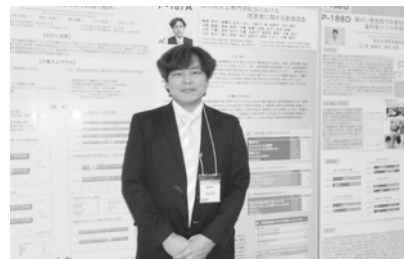
3. 第30回日本障害者歯科学会



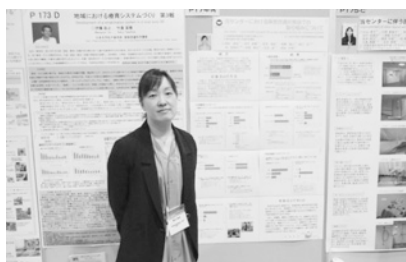
演者 大森勇市郎先生



演者 関口 浩先生



演者 梅澤幸司先生



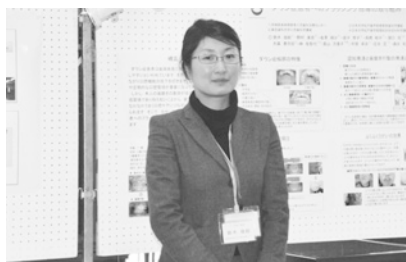
演者 野村美奈歯科衛生士



出席者全員

4. 第22回茨城県歯科医学会

①ポスター発表



演者 鈴木哉絵歯科衛生士



演者 鬼澤璃沙歯科衛生士

②口演発表



演者 森永桂輔先生

③障害児・者歯科シンポジウム



挨拶する森永和男会長



司会の関口 浩先生と
梅澤幸司先生



講師 石井拓郎先生



講師 辻野啓一郎先生



講師 高野宏二先生



講師 山口さやか先生



講師 小峯久直先生



講師 大森勇市郎先生



講演後の全体討議



質問する高木伸子先生



質問する石岡みずき先生



質問する田中晃伸先生

C. 講習会・研修会

1. 第1回心身障害者（児）歯科予防講習会



講師 杉山哲也先生



講師 渡辺佳樹先生



講師 大内千裕先生



森永和男会長との記念撮影



講演後の懇親会

2. 土浦歯科治療センター主催の心身障害者（児）の歯科予防講習会



挨拶する森永和男会長



司会の高木伸子先生と
丸山容子先生



講師 岡崎好秀先生

3. 摂食嚥下研修会



三田村佐智代先生の講演



鬼澤璃沙歯科衛生士による
口唇介助しての捕食訓練



鈴木哉絵歯科衛生士による
顎介助しての嚥下訓練

4. 特別支援学校強化事業および実習



D. 学生教育

1. 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第2学年の相互実習（水戸口腔センター）



常勤歯科衛生士の指導でレストレーナーの装着実習を行う学生

2. 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第3学年の相互実習（水戸口腔センター）



常勤歯科衛生士の指導で問診、口腔診査、ブラッシング指導、スケーリングの実習を行う学生

3. 獨協医科大学第5学年学生のセンター見学（水戸口腔センター）



E. その他



関口杯第1回ボーリング大会



景山万貴子先生、鬼澤璃沙
歯科衛生士歓迎会・寺門寿恵
歯科衛生士慰労会



水戸・土浦合同忘年会



三田村（旧姓：林）佐智代先生
結婚祝賀会



医局会での勉強会（月1回開催）
（水戸口腔センター）

9 . 録 事

I . 身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

平成 25 年

- 4 月 1 日 景山万貴子非常勤医局員就任（月曜日担当）
鬼澤璃沙歯科衛生士 茨城歯科専門学校歯科衛生士科より水戸口腔センターに異動
- 4 月 22 日 磯部昌己受付事務就任（月・火・木（午前のみ）・金曜日の 4 日勤務）
- 4 月 22 日 景山万貴子先生，鬼澤璃沙歯科衛生士歓迎会
寺門寿恵歯科衛生士慰労会（於：水戸竹取御殿）
- 4 月 25 日 第 15 回医局会
勉強会担当：金子雅子歯科衛生士
課題：「手話入門」
- 5 月 2 日 特別支援学校機能強化事業（文部科学省委託事業）
期間：平成 25 年 5 月～平成 26 年 3 月
対象校：16 校（知的障害特別支援学校 13 校、肢体不自由特別支援学校 3 校）
内容：知的障害教育および肢体不自由教育における食事（摂食・嚥下）指導の充実
教員向けの全体的な研修
保護者向けの研修
個別の指導に関する実践研究
講 師：林 佐智代先生，野村美奈，鈴木哉絵歯科衛生士
- 5 月 9 日 平成 24 年度茨城県障害児・者歯科治療センター記録（2）発刊
- 5 月 23 日 関口 浩先生 第 51 回日本小児歯科学会大会（岐阜）において
「平成 24 年度 PEDIATRIC DENTAL JOURNAL 優秀論文賞」受賞
- 5 月 27 日 第 16 回医局会
勉強会担当：鬼澤璃沙歯科衛生士
課題：「障害者歯科について」
- 5 月 28 日 摂食指導研修会
場所：茨城県立水戸特別支援学校
内容：「安全な食事をするために（食形態や誤嚥等の危険）」
対象：保護者と教職員
講師：林 佐智代先生
- 5 月 29 日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第 3 学年口腔センターでの相互実習開始
期間：5 月 29 日，6 月 19 日，6 月 26 日，7 月 10 日，7 月 17 日の計 5 日
人数：53 人
編成：1 グループ 9 ～ 12 人編成で 5 班
回数：5 回（各班とも水曜日の 1 日）
時間：9 時～ 15 時
内容：問診，口腔診査，ブラッシング指導，スケーリング，保健指導
担当：野村美奈，鈴木哉絵，鬼澤璃沙歯科衛生士
- 5 月 30 日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第 2 学年（43 期生）の臨床実習オリエンテーション

- 担当：関口 浩先生，野村美奈歯科衛生士
- 6月9日 水戸口腔センター主催心身障害者（児）の歯科予防講習会開催
 場所：茨城県歯科医師会館 3F 講堂
 演題：「求められる歯科医師と大学の対応」
 講師：杉山哲也先生（東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科）
 演題：「知的障害児・者における歯科的問題行動について」
 講師：渡辺佳樹先生（茨城県立あすなろの郷病院歯科）
 演題：「歯科衛生士としての口腔保健と社会活動を通じての口腔保健について」
 講師：大内千裕歯科衛生士（元茨城県立あすなろの郷病院歯科）
- 6月14日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第2学年（43期生）障害者歯科学講義
 期間：6月14日～9月27日
 回数：10回
 時間：90分/1回（計15時間）
 内容：障害者歯科総論，障害者歯科診療に応用さえる行動調整法，障害の種類と歯科的特徴，障害者と薬剤，障害者歯科における歯科衛生士の役割，障害者の歯科保健指導と口腔保健管理，障害者歯科医療・保健施設における歯科衛生士の役割
 担当：関口 浩先生，森永桂輔先生
- 6月17日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第2学年（44期生）前期臨床実習
 期間：6月17日～9月24日
 編成：1グループ4～5人編成で13班
 回数：13回（各班とも月・火のいずれかの1日間）
 人数：53人
- 6月21日 教育庁特別支援教育課 特別支援学校強化事業「食事指導ガイドブック作製委員会」
 期間：6月21日，8月22日，10月4日，12月11日，平成26年1月17日
 回数：5回
 担当：林 佐智代先生，野村美奈歯科衛生士
- 6月24日 第17回医局会
 勉強会担当：景山万貴子先生
 課題：「唇顎口蓋裂患者に外科的矯正術を適用した症例」
- 6月27日 坂巻ますみ歯科衛生士（土浦歯科治療センター）水戸センター見学
- 7月29日 第18回医局会
 勉強会担当：関口 浩先生
 課題：「初診患者のケースカンファレンス開始にあたって」
- 7月29日 第1回茨歯会親睦球技大会「ボーリング部門」開催
 （於：ロゼオ水戸ショッピングセンター内 T.T BOWL ロゼオ水戸）
- 7月31日 茨城県歯科専門学校歯科衛生士体験入学・説明会
 期間：7月31日，8月21日，9月28日，平成26年3月25日の4日間
- 8月23日 第1回初診患者ケースカンファレンス
 担当：関口 浩先生，大森勇市郎先生
- 8月27日 摂食嚥下研修会

日程：8月27日、10月1日、10月22日、11月12日、12月3日、1月21日の計6回

時間：午後6時20分～7時50分

場所：茨城県歯科医師会館 3F 講堂

内容：「食べるための構造とメカニズム」(講義)

「哺乳・離乳期の発達とその障害」(講義)

「自食機能の発達とその障害」(講義)

「摂食嚥下機能訓練の実際①」(実習)

「摂食嚥下機能訓練の実際②」(実習)

「摂食嚥下機能障害への対応～各障害における摂食指導の実際～」

対象：茨城県内の障害のある者に関わる職種の方

担当：林 佐智代先生、野村美奈、鈴木哉絵、鬼澤璃沙、金子雅子、高橋裕子歯科衛生士

8月30日 第19回医局会

勉強会担当：大森勇市郎先生

課題：「開咬を呈した脳性麻痺患者への咀嚼機能改善の試み」

9月5日 第1回センター運営委員会開催

場所：茨城県歯科医師会館 2F 会議室

関口 浩先生特別職から委員に就任

9月9日 第2回初診患者ケースカンファレンス

担当：関口 浩先生

9月22日 第19回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会に参加

会場：川崎医療福祉大学（倉敷）

参加：林 佐智代先生、野村美奈、鈴木哉絵、鬼澤璃沙歯科衛生士

演題：ポスター1題

9月27日 第3回初診患者ケースカンファレンス

担当：大森勇市郎先生

9月27日 獨協医科大学第5学年学生4人が地域保健実習のためセンター見学

10月1日 第20回医局会

勉強会担当：林 佐智代先生

課題：「窒息について」

10月1日 寺門静香歯科衛生士（水戸医療センター口腔外科非常勤）障害児者の摂食嚥下リハビリテーション見学のため毎週火曜日来院（平成26年3月まで）

10月7日 第4回初診患者ケースカンファレンス

担当：関口 浩先生

10月7日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第2学年（44期生）後期臨床実習

期間：10月7日～2月21日

編成：1グループ4～5人編成で11班

回数：11回（各班とも月・火・金の3日間）

人数：51人

10月7日 茨城歯科専門学校歯科技工士科第2学年の見学実習

期間：10月7日～10月25日

編成：1グループ2人編成で6班

回数：6回（月・木・金曜日のいずれか1日）

人数：12人

10月12・13日

第30回日本障害者歯科学会総会および学術大会に参加

会場：神戸国際展示場

参加：関口 浩先生，大森勇市郎先生，野村美奈，鬼澤璃沙歯科衛生士

演題：ポスター3題

10月23日 茨城県歯科専門学校歯科衛生士科第2学年巡回実習開始

期間：10月16日～平成26年2月26日

編成：1グループ12～13人編成で4班

回数：16回（各班とも4回／水曜）

人数：51人

10月25日 第5回初診患者ケースカンファレンス

担当：大森勇市郎先生

10月28日 第21回医局会

勉強会担当：野村美奈歯科衛生士

課題：「安全に楽しく食事をするために」

11月 1日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第3学年（42期生）摂食嚥下指導講義・実習

期間：11月1日～平成26年1月10日

回数：11回

時間：90分／1回（計16.5時間）

内容：口腔機能の体験実習，摂食嚥下指導に必要な解剖学的知識と生理学的メカニズム，摂食嚥下機能訓練法（間接訓練法），摂食嚥下機能訓練法（直接訓練法），摂食嚥下障害の原因／摂食機能の加齢変化／摂食嚥下機能の臨床的診断法

担当：林 佐智代先生

11月 3日 水戸口腔センター・土浦歯科治療センター合同打合せ会

会場：霞ヶ浦医療センター会議室

11月11日 第6回初診患者ケースカンファレンス

担当：関口 浩先生

11月22日 第7回初診患者ケースカンファレンス

担当：大森勇市郎先生

11月25日 第22回医局会

勉強会担当：鈴木哉絵歯科衛生士

課題：「歯科衛生士が行う口腔管理」

11月28日 野村美奈，鬼澤璃沙両歯科衛生士 石岡第一病院の全身麻酔を見学

12月 2日 水戸・土浦合同忘年会

会場：常陸之國 もんどころ（水戸）

12月 9日 第8回初診患者ケースカンファレンス

担当：関口 浩先生，景山万貴子先生

12月12日 鈴木哉絵，高橋裕子両歯科衛生士 石岡第一病院の全身麻酔を見学

12月26日 第23回医局会

勉強会担当：高橋裕子歯科衛生士
課題：「口の中から見た子供の虐待」

平成 26 年

- 1 月 8 日 リリー保育福祉専門学校介護福祉学科第 2 学年に対して摂食嚥下に関する講義
担当：野村美奈歯科衛生士
- 1 月 9 日 野村美奈，金子雅子両歯科衛生士 石岡第一病院の全身麻酔を見学
- 1 月 10 日 三田村（旧性：林）佐智代先生ご結婚
- 1 月 10 日 茨城県歯科専門学校歯科衛生士科第 3 学年国家試験対策補習講義
回数：1 回
時間：90 分
内容：摂食嚥下
担当：三田村 佐智代先生
- 1 月 12 日 三田村（旧性：林）佐智代先生結婚
- 1 月 15 日 全身麻酔施設設備整備に伴う診療室改修工事開始
- 1 月 16 日 茨城県歯科専門学校歯科衛生士科第 3 学年の国家試験対策補習講義
回数：1 回
時間：90 分
内容：障害者歯科
担当：関口 浩
- 1 月 24 日 第 9 回初診患者ケースカンファレンス
担当：関口 浩先生，大森勇市郎先生
- 1 月 31 日 第 24 回医局会
勉強会担当：金子雅子歯科衛生士
課題：「経管栄養患者の口腔ケア」
- 2 月 3 日 全身麻酔施設設備整備に伴う診療室改修工事終了
- 2 月 6・7 日 水戸市大成女子高校第 1 学年生徒 1 人が職場体験のため口腔センター見学
- 2 月 6 日 筑波大学医学群医学類第 5 年次学生 7 名が社会医学実習のため口腔センター見学
- 2 月 9 日 第 22 回茨城県歯科医学会
会場：水戸プラザホテル
題数：ポスター 4 題，シンポジウム 1 題
- 2 月 13 日 鈴木哉絵歯科衛生士 石岡第一病院の全身麻酔を見学
- 2 月 13 日 第 2 回センター運営委員会開催
場所：茨城県歯科医師会館 3F 会議室
- 2 月 21 日 第 10 回初診患者ケースカンファレンス
担当：関口 浩先生，大森勇市郎先生
- 2 月 24 日 茨城県歯科専門学校歯科衛生士科第 1 学年生徒見学実習
期間：2 月 24 日～3 月 18 日
編成：1 グループ 4～5 人編成で 10 班
回数：10 回（各班とも月曜、火曜、金曜のいずれか 1 日）

人数：49 人

- 2 月 24 日 第 25 回医局会
勉強会担当：鬼澤璃沙歯科衛生士
課題：「器具の洗浄・管理」
- 2 月 25 日 三田村（旧姓：林）佐智代先生結婚祝賀会
於：ホテルテラスザガーデン水戸 イタリアンレストラン「イル・バンカーレ」
- 2 月 26 日 心身障害児療育訓練センターにおける保護者勉強会
場所：ひたちなか市総合福祉センター野蒜教室・かなりや教室
内容：「口腔の仕組みや歯の健康・咀嚼についての講話および歯磨き指導」
対象：心身障害児療育訓練センターに通所している幼児および保護者
講師：野村美奈，鈴木哉絵
- 2 月 27 日 野村美奈，鬼澤璃沙両歯科衛生士 石岡第一病院の全身麻酔を見学
- 3 月 10 日 第 11 回初診患者ケースカンファレンス
担当：関口 浩先生，景山万貴子先生
- 3 月 13 日 野村美奈歯科衛生士 石岡第一病院の全身麻酔を見学
- 3 月 16 日 金子雅子歯科衛生士 水戸市歯科医師会主催「救急救命講習会」を受講
- 3 月 17 日 全身麻酔器機等の取り扱い説明会
- 3 月 26 日 全身麻酔施設設備整備に伴う診療ユニット位置変更等の工事実施・完了
- 3 月 28 日 第 26 回医局会
勉強会担当：関口 浩先生
課題：「障害者歯科における日帰り全身麻酔の現状」
- 3 月 31 日 関口 浩先生 東京歯科大学退職

II. 土浦心身障害者歯科治療センター（土浦歯科治療センター）

平成 25 年

- 4 月 1 日 常勤歯科衛生士 坂巻ますみ就任
- 4 月 9 日 竹中京子歯科衛生士 茨城医療福祉研究会歯科フォーラム実行委員会に出席
(5 月 14 日、16 日、8 月 27 日)
- 4 月 28 日 竹中京子歯科衛生士 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第 2 学年（44 期生）に対して
歯科保健指導について講義（期間：4 月 28 日～6 月 21 日 計 6 日）
- 4 月 10 日 茨歯会報 2013 投稿 丸山容子
障害児・者歯科医療シンポジウム「歯科とともに考える多職連携」についての報告
- 4 月 12 日 第 153 回摂食カンファレンス「多系統萎縮症の事例検討」
新館綾乃 理学療法士 神立病院
- 5 月 10 日 第 154 回摂食カンファレンス「K 君の摂食と栄養管理」
渡辺章充 小児科医 土浦協同病院
- 5 月 13 日 自動血圧計及びパルスオキシメーター（新しい機種）設置
- 5 月 31 日 非常勤歯科衛生士 和地澄子 退職
- 6 月 7 日 小型滅菌器 プチクレーブ設置
- 6 月 14 日 第 155 回摂食カンファレンス
「患者さんにモチベーションを上げるコミュニケーションの工夫～歯みがきと歯肉の変化を例
に～」
川澄圭子 歯科衛生士 塙歯科医院
- 6 月 23 日 茨城における小児の発達を支える地域リハビリテーションを考える会
「障害を持つ子どもたちの口の中と摂食機能」茨城県立医療大学
講演 高木伸子
- 6 月 26 日、7 月 11 日、7 月 28 日
広沢学園取手衛生専門学校第 2 学年 障害者歯科学講義 1 回×2 コマ
梅澤幸司
- 6 月 27 日 土浦市療育センター・つくし作業所 歯科検診 高木伸子 竹中京子
- 7 月 10 日 茨城県特別支援学校強化事業 下妻特別支援学校
個別指導、教員向け研修会 高木伸子 手塚文栄
- 7 月 12 日 第 156 回摂食カンファレンス
「パンを好きだった方にこれからパン食の毎日を～らくらく食パン～の紹介」
三山雅代 タカキヘルスケアフーズ代表取締役社長
在宅介護用ベッド 「ミオレット・フォーユー」の紹介
- 7 月 26 日 「ヘルスプロモーションと看護」茨城県立医療大学 講義 高木伸子
- 7 月 30 日 「摂食機能の改善や育ちを促す食事と介助の仕方」
つくば市社会福祉協議会 講義・実習 手塚文栄
- 8 月 1 日 茨城県特別支援学校強化事業 つくば特別支援学校 知的 A
教員向け研修会 手塚文栄
- 8 月 7 日 「噛む力をはぐくむ給食の与え方と日々の遊び」つくば市上広岡保育所
個別指導、職員向け研修会 手塚文栄

- 8月 8日 茨城県特別支援学校強化事業 つくば特別支援学校 肢体 B
教員、保護者向け研修会 高木伸子 手塚文栄
- 8月 9日 茨城県特別支援学校強化事業 美浦特別支援学校
教員、保護者向け研修会 高木伸子 手塚文栄
- 8月27日 平成 25 年度 摂食嚥下研修会
10月1日、22日、11月12日、12月3日、H26 1月21日（全6回）
茨城県歯科医師会会館
- 8月29日 モリタユニット撤去
オサダユニット2台設置
- 9月 5日 茨城県特別支援学校強化事業 美浦特別支援学校
個別指導・教員向け研修会 高木伸子 手塚文栄
- 9月 5日 第1回身体障害者・小児歯科治療センター運営委員会
茨城県歯科医師会会館 丸山容子 坂巻ますみ
- 9月12日 筑波大医学部5年生見学
- 9月13日 第157回摂食カンファレンス
「看護師ができるミルサーを使った嚥下食指導 牛久セントラル病院の取り組み」
古田良恵 摂食嚥下リハビリテーション認定看護師・牛久セントラル病院
- 9月21日 第19回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会（川崎医療福祉大学）
～23日 高木伸子 竹中京子 手塚文栄
- 10月 3日 茨城県特別支援学校強化事業 下妻特別支援学校
個別指導・教員研修会 高木伸子 手塚文栄
- 10月11日 第30回日本障害者歯科学会および学術大会（神戸コンベンションセンター）
～13日 高木伸子 坂巻ますみ 竹中京子
- 10月16日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第2学年（44期生）
くるみ館 実習指導 竹中京子
- 10月18日 社会福祉法人桜会 さくら荘 歯科検診 丸山容子 竹中京子
- 10月21日 第2回関東シーティング・セミナー
‘食べる’に活かすシーティング技術 リハビリテーション天草病院
講演 高木伸子
- 10月27日 茨城医療福祉研究会 第6回歯科フォーラム（つくば国際大学）
- 11月 3日 茨城県歯科医師会主催 障害児・者歯科予防講習会
～障害児・者の口の使い方、噛むことと健康～
「世界で1番聞きたい歯と口の話」
～進化から口の機能を考える～
岡崎好秀（モンゴル健康科学大学客員教授）
- 11月 5日 広沢学園取手歯科衛生専門学校3年生11名臨床実習
～27日
- 11月 8日 第158回 摂食カンファレンス
「卵の話」 越藤
「入浴の医学」 安岡 日立製作所多賀総合病院副院長
- 11月14日 茨城県特別支援学校強化事業 つくば特別支援学校肢体 B

- 個別指導・教員向け研修会 高木伸子 手塚文栄
- 11月18日 リリー保育福祉専門学校介護福祉学科第2学年
口腔ケアの実際について 講義 竹中京子
- 11月28日 摂食嚥下障害看護認定看護師養成教育課程「摂食・嚥下障害看護」
茨城県立医療大学 講義 高木伸子 竹中京子
- 11月29日 社会福祉法人明清会 ほびき園 歯科検診 高木伸子 竹中京子
- 12月2日 第17回茨城県総合リハビリテーション学会学術集会
リハビリ装具としての義歯～口腔の不随意運動が改善した例～
茨城県メディカルセンター 講演 高木伸子
- 12月12日 茨城県特別支援学校強化事業 美浦特別支援学校
個別指導・教員向け研修会 高木伸子 手塚文栄
- 12月13日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第3学年（43回生）
歯科保健指導に対して国家試験対策補習 竹中京子
- 12月13日 第159回摂食カンファレンス
「摂食嚥下障害のメカニズム（球麻痺、仮性球麻痺、一側性大脳病変等の特徴）および 症例報告」
市村和大 歯科医師

平成26年

- 1月8日、22日
広沢学園取手歯科衛生専門学校 第3学年
国家試験対策講義（障害者歯科学）1回90分×2コマ
梅澤幸司
- 1月15日 「ダウン症療育 ひよこ教室」 東京テモテ教会
個別指導・保育者研修・職員研修 手塚文栄
- 1月22日 茨城県特別支援学校強化事業 下妻特別支援学校
個別指導・教員向け研修会 手塚文栄
- 1月29日 茨城県特別支援学校強化事業 つくば特別支援学校
個別指導・教員向け研修会 手塚文栄
- 1月30日 土浦市療育センター・つくし作業所 歯科検診 高木伸子 竹中京子
- 2月5日 「噛む力をはぐくむ給食の与え方と日々の遊び」つくば市上境保育所
個別指導・教員向け研修会 手塚文栄
- 2月13日 第2回身体障害者・小児歯科治療センター運営委員会
茨城県歯科医師会会館 丸山容子 坂巻ますみ
- 3月14日 第160回摂食カンファレンス
「STが行う小児のリハビリテーションについて」
岩崎 淳也 茨城県言語聴覚士会副会長、水戸メディカルカレッジ専任教員
- 3月17日 土浦センター医局会
- 3月20日 土浦石岡医師会医療安全講習会 歯科診療所における医療安全管理
丸山容子
- 3月25日 平成26年度診療報酬改定説明会 牛久市中央障害学習センター文化ホール
坂巻ますみ 竹中京子

10. 編集後記

茨城県在住の障害児者が最小の負担で安全・安心かつ質の高い歯科治療を受けることができる歯科医療体制の仕組みを整備するために、水戸口腔センターと土浦歯科治療センターでは、様々な取り組みをおこなっています。

①障害者歯科医療連携ネットワークの構築

平成 24 年 9 月にセンターを中心に障害児者歯科医療連携ネットワークを構築し、125 名の協力医が登録されました。このネットワークの目的は、センターの新患者数および延べ患者数が増加傾向にあり、今後、この状況が継続した場合、診療に支障をきたす恐れが予想されるため、歯科診療所、病院歯科、近県の歯科大学病院との連携を深め、患者さんを相互に受け入れるための体制作りを推進するものです。

②スペシャルニーズのある患者への対応

センターに来院する障害児・者の中には、嘔吐反射が強かったり、精神遅滞があり歯科治療に対して拒否行動が激しい患者、脳性麻痺のように緊張や不随運動があり、一般的な行動調整法では治療困難な患者がいます。このような患者に歯科治療を行う上で、静脈内鎮静法または日帰り全身麻酔法は有用な方法です。静脈内鎮静法は平成 22 年 10 月から歯科麻酔医の協力の下で既に実施しており、患者・保護者から満足のいく成果が得られています。日帰り全身麻酔法は来年度 5 月からの実施に向けて施設の整備・スタッフ研修を行っています。

一方、食べることが上手にできない患者には摂食嚥下リハビリテーションの専門スタッフが指導を行っていますが、患者数の急激な増加に伴い、すでに摂食嚥下リハビリテーション外来は飽和状態にあります。そこで、来年度からは、診療日を 1 日増やし、週 2 日体制で対応する予定です。さらに、平成 24 年度から開始した摂食嚥下研修会は 26 年度で 3 年目を迎え、他職種からも多数の参加を得ており、今後、摂食嚥下リハビリテーション学会認定士の資格を持つ指導者の育成が急務な課題であります。

③診療外活動（研究、講演・研修、情報発信）の強化

学会発表、講演会開催はすでに多数にわたり、会員向けには、茨歯会報平成 23 年 5 月号より毎号の「センターだより」で情報発信をしています。また、水戸口腔センターおよび土浦歯科治療センターは日本障害者歯科学会の臨床研修施設認定を受けており、県内の若手歯科医師および歯科衛生士を対象に教育・研修をおこなう役目も担っています。次年度からは、障害児者歯科診療協力医および障害児者歯科診療に取り組もうとする歯科医師、歯科衛生士を対象とした研修の開催に向けて準備しているところです。

今後のセンター事業の遂行に当たっては、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、本誌の編集に際して、ご協力いただいた水戸口腔センターおよび土浦歯科治療センターのスタッフ各位に感謝を申し上げます。

平成 26 年 4 月 15 日
水戸口腔センター 関口 浩

茨城県障害児・者歯科治療センター記録（3）

発行日	平成 26 年 5 月 20 日発行
発行者	公益社団法人 茨城県歯科医師会
	〒310-0911 水戸市見和 2 丁目 292 番地 1
	電話 029-254-4177
印刷所	大富印刷株式会社
